

# がしな 百年力

品川区永年継続事業所顕彰事業

品川区内の老舗事業所に学ぶ、  
事業継続の秘訣

目次

1 「しながわ百年力」発行にあたって	2
2 事業紹介	3
3 「しながわ百年力」ダイジェスト	4
4 顕彰事業所紹介	6
<b>1 民間企業（大企業）</b> 日本ペイントホールディングス株式会社／三菱鉛筆株式会社／ 株式会社加藤製作所／株式会社明電舎／光村印刷株式会社／ 三和テッキ株式会社／タキゲン製造株式会社／大崎電気工業株式会社／ 日本精工株式会社／株式会社ニコン／ 東洋製罐グループホールディングス株式会社	
百年カラム1 「顕彰事業所と都市型観光」	17
<b>2 学校法人</b> 学校法人攻玉社学園／学校法人立正大学学園／学校法人三浦学園／ 学校法人星薬科大学	18
<b>3 民間企業（中小企業・個人事業主）</b> 八木合名会社仙台味噌醸造所／有限会社加藤畳店／有限会社畳松岡／ 株式会社平野屋堀江商店／山崎商店／有限会社三河屋／ 榊翁軒／ヤマギシリフォーム工業株式会社／有限会社吉田家／ 株式会社東海造園／丸屋履物店／有限会社河邊商店／株式会社幸阪／ 株式会社オカジマ／株式会社星野金物／株式会社尾張屋／ 栗山商事株式会社／株式会社フクイ／株式会社泰正／ 株式会社池田元一商店／有限会社御菓子司木村家／ 有限会社富田屋工業所／せんべい処あきおか／株式会社小野運送店／ 株式会社岩元屋商店／平和バルブ工業株式会社／有限会社櫻井精肉店／ 有限会社青波堂木庭印房／株式会社東京堂／清水米穀株式会社／ 株式会社 KANO / 品川屋海苔店／株式会社みの屋海苔店／ 株式会社ワインショップ西川／有限会社新井商店／株式会社南京軒食品／ 株式会社日本理化工業所／小林運送株式会社／株式会社若素園／ 曾根金網工業株式会社／株式会社ジャパンコマース／ 株式会社塚本恒産／仲屋ブラシ工業株式会社／株式会社山田紙器	22
5 顕彰事業所マップ	44
百年カラム2 「顕彰事業所と商店街」	46

※事業所紹介は、①創業（開校）年数 ②品川区内在年数 ③50音の順で掲載しています。  
 ※創業年数等掲載内容は、注釈がない限り2017年現在の情報です。

## 「しながわ百年力」発行にあたって



品川区では、平成27年度より、創業100年以上、品川区内で70年以上事業を継続している区内事業所を対象に、区内産業および地域コミュニティ等への貢献ならびに永年の努力に対し敬意を表し顕彰する事業を実施してきました。

そして今年度、この顕彰事業に加え、この3年間の集大成として、今まで顕彰をいたしました永年継続事業所を品川区の誇りとして広く内外にPRすること、また、幾多の危機を乗り越えてきた事業所が有する事業継続のためのノウハウ等を広く伝え、区内企業の事業継続を支援することを目的として、本冊子「しながわ百年力」を作成しました。

本冊子では、この3年間に顕彰をいたしました区内59カ所の事業所を紹介しております。

品川区は、江戸時代から東海道第一の宿場としてにぎわい、加えて、明治期に入ってから京浜工業地帯発祥の地として、目黒川の水運の利便性や鉄道の開業を背景にもものづくり企業などが発展してきた長い歴史があります。

このような長い歴史の中で、本冊子で紹介しております事業所は、区内経済や雇用を支え、商店街のにぎわいを創出するとともに、防災・福祉・地域活動など様々な分野における社会貢献活動を行うなど、品川区の産業振興や地域の発展に長きにわたり寄与していただいている事業所であります。

各事業所の100年を超える経営の歴史の中では、幾多の金融危機や震災、戦災などもあり、常に順風満帆ではなかったと想像できます。しかしながら、現在まで事業を継続してこられた各事業所には、その危機を乗り越えてきた並々ならぬご努力、ご経験、ノウハウ等をお持ちであり、本冊子ではこうしたことも紹介しております。

本冊子で紹介している各事業所が今後も末永く事業を継続され、ますますご活躍されますことをご祈念申し上げますとともに、本冊子の内容が、区内中小企業の事業継続の支援や更なる活性化の一助となれば幸いです。

平成30年1月

品川区長 **濱野 健**

## ■品川区永年継続事業所顕彰事業とは

区内での事業継続を支援し、区内産業および地域コミュニティの活性化を図ることを目的として、永年にわたり事業を継続している区内事業所への顕彰事業を平成27年度より実施しました。

### ■対象

創業100年以上、品川区内で70年以上事業を継続している  
区内事業所

### ■実施内容

年に1回顕彰の対象となる事業所を決定し、式典を実施  
平成27年度 22事業所（式典：平成28年2月24日（水））  
平成28年度 20事業所（式典：平成28年12月2日（金））  
平成29年度 17事業所（式典：平成30年1月31日（水））

平成29年度は、上記に加えて、この3年間に顕彰しました区内59事業所を広く内外にPRするため、また、各事業所の事業継続のノウハウ等を紹介し、区内企業の事業継続や事業承継を支援するため、本冊子「しながわ百年力」を作成しました。



## ■品川区の事業承継支援事業

区では、区内中小企業の多くが経営者の高齢化による後継者不足等に直面している現状があることを踏まえ、世代交代の促進と地域経済の発展および雇用の維持・拡大を図ることを目的として、下記のとおり事業承継への支援を実施しています。（※事業内容は平成29年12月1日現在のものです。）

### 1) 事業承継セミナー

事業承継に関する導入的なセミナー、後継者に関するセミナーを行います。

### 2) 訪問相談(専門家の派遣)

事業承継に関するご相談を専門家「事業承継士」がお受けします。

■対象者 区内中小企業の経営者、後継者

■内容 お悩みに対するアドバイス、診断、事業承継プラン策定など

※日時・場所は希望に応じて要相談

### 3) 後継者塾

後継者（候補者）の育成のため、区内中小企業の後継者・後継者候補の方を対象に、経営に必要な知識やノウハウを提供します。また、後継者世代の仲間づくりをサポートします。（※平成29年度は10月～1月まで全8回実施）

### 4) 事業承継支援資金

事業承継に必要な資金の融資  
あっせんを行っています。



## ■お問い合わせ

品川区地域振興部商業ものづくり課  
〒141-0033 品川区西品川1-28-3 中小企業センター2F  
TEL 03-5498-6335

# 「しながわ百年力」ダイジェスト

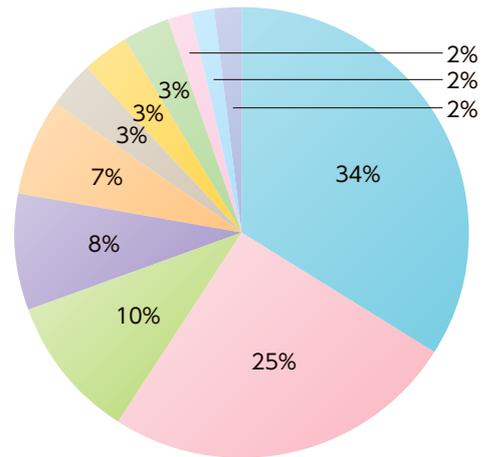
## 「しながわ百年力」事業所の全体像

59の事業所について、業種別、本社所在地別、創業年代別に統計を取りました。

### 業種

#### 製造業と小売業で6割ほどを占める

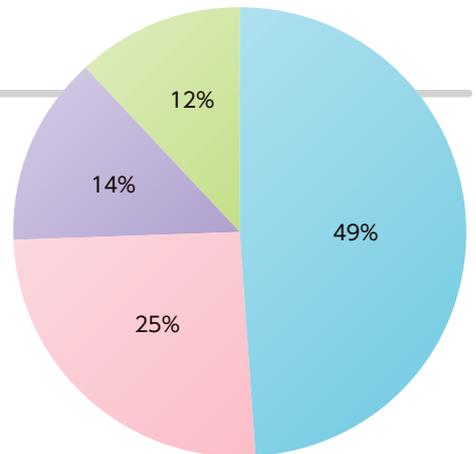
最も多い製造業が20事業所、それに次ぐ小売業が15事業所となり、両者で約6割を占めています。製造業の10事業所は大企業であり、その分野で国内企業有数の実績を残しています。



### 地区

#### 品川地区が5割弱を占める

かつて品川宿として栄えた地域を中心とする品川地区に所在する事業所が29カ所あり、5割弱を占めます。次いで大崎地区、荏原地区、大井地区の順となっています。



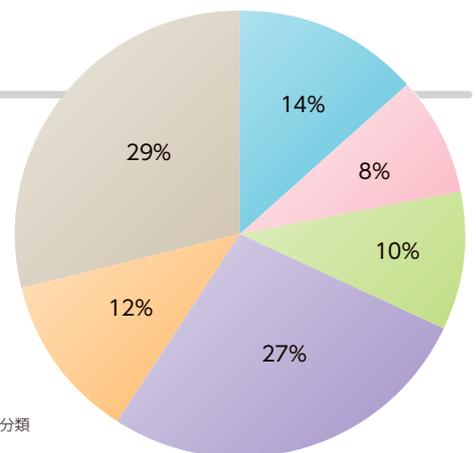
### 創業年数

#### 5割以上の事業所が明治期の創業

時代別では江戸時代に創業した事業所が13カ所、明治時代が29カ所、大正時代（～大正6年）が17カ所となります。区内で最古の事業所は1625（寛永2）年創業の八木合名会社仙台味噌醸造所。



※江戸後期以前：1853年以前 幕末：1854～1867年 明治前期：1868～1888年  
明治中期：1889～1904年 明治後期：1905～1911年 大正：1912年～として分類



平成 27、28、29 年度に品川区永年継続事業所表彰を受けた事業所（＝「しながわ百年力」事業所）は59カ所あります。各事業所の記事の前に、全体の統計や取材で得られた至言の一部をダイジェスト的に紹介します。

## 「しながわ百年力」事業所の至言

各事業所を取材する中で得られた「至言」の一部をご紹介します。

### 経営

- 老舗であるからこそ時代のニーズに敏感になり、変化を恐れない姿勢を持つべき。
- 伝統をただ守るだけでなく、時代に合わせることも必要。
- 老舗として、材料は手に入りうる最高の物にこだわる。
- 100年にわたり成長を続けているパワーの源は、常に新たなジャンルに挑戦し、今までにない価値の創造を目指す社風に他ならない。
- 時代の波に惑わされることなく自分たちのキャパシティを守り、堅実に目の前の仕事をこなしていく。
- 生産を外部の協力工場に委ね、経営資源や人材を製品開発や営業に集中させてきたことが、今につながっている。

### 地域

- この地でずっと事業を続けてこられたのは、人とのつながりが大きい。今も当社では地域の活動やイベントに積極的に協力しながら、地域や社会に貢献できる事業を心がけている。
- 会社は公共のもの。地域社会とのつながりを大切に。
- 商店街と町会の両輪で、地域を元気にすることが大切。商売だけでなく、まちづくりの視点も。

### 人

- 優秀な人材が、家族同然の結束力で、迅速に実行し、協力工場をはじめとした関わるすべての人たちに感謝をする。これに勝る武器はありません。
- 少人数だからこそ、小回りが利く。お客様のご要望に対する「迅速な対応力」は変わることなく受け継がれている。
- 商店街の皆さん、組合の皆さん、問屋やメーカーの皆さんを、分け隔てなく大事に。「人を大事にすること」は営業の根幹。

製造業(塗料・表面処理剤製造、販売)

# 日本ペイントホールディングス株式会社

共存共栄の理念に基づき、  
社会公共の福祉に貢献

創業  
136年

創業：1881(明治14)年  
資本金：788億6,200万円  
本社所在地：大阪市北区大淀北2-1-2  
東京事業所：東京都品川区南品川4-1-15  
電話番号：03-3740-1110

代表者：代表取締役社長 田堂 哲志  
従業員数：単体：224人 連結：16,872人  
売上高：4701億6100万円  
URL：www.nipponpaint-holdings.com/

\*2016年12月31日現在

大手企業



我が社の  
百年譚

## 日本の塗料業界のトップから 世界のリーディングカンパニーへ

1881(明治14)年に茂木重次郎が創業し、ペンキの国産に初めて成功した光明社がルーツです。1869(明治29)年に現在の東京事業所がある南品川の土地に工場を移転し、1898(明治31)年には日本ペイント製造株式会社を設立しました。販路拡大を目指して企業の近代化を進め、経営の多角化にも着手。大阪工場竣工に続き、東京工場を拡張しました。第一次世界大戦後の恐慌で業績不振に陥りますが、中興の祖・小畑源之助が本社を大阪に移転するなどの改革を断行し、業績を回復すると同時に、強固な経営基盤を構築しました。第二次大戦後には、進駐軍からの大量受注や朝鮮戦争特需、関連産業の需要が急増し、



左 第4代社長小畑源之助

右 明治30年代頃、  
現在地の遠景

業績が大きく拡大しました。その後は、海外へ販路を拡大しつつ、合併会社の設立や技術・販売提携等を通じて進出、国内では販売網の整備・拡大を続け、昭和55年度の決算では売上高を1000億円台に乗せました。平成に入るとグローバル展開を加速し、2014年には持株会社体制に移行、組織を再編成し、現社名に商号を変更しました。現在は世界第4位。売上高1兆円を目指し、更にプレゼンスを高め新たなステージに挑戦していきます。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

## 中興の祖による大改革で戦後恐慌を乗り切った



代表取締役社長  
田堂 哲志

当社は、第一次世界大戦後の恐慌によって、創業以来初めての赤字決算となり、危機を迎えました。そこで1920(大正9)年、小畑源之助専務取締役(後に社長)が経営の舵取りを行い、全国の工場を集約、経営の中心を大阪に移すといった大改革を断行し、業績を瞬間に回復させました。創業以来、私たちの諸先輩方が幾多の困難を乗り越え、積み重ねてきた日々があり、この歴史を、持続的に成長させることが私たちの使命です。当社のたすきを未来へ繋ぐために、今後も社員一人ひとりがあくなき挑戦を続けてまいります。

地域とともに

## ■ 近隣小学校で塗装ボランティアを実施

企業の社会貢献活動の一環として、事業所の近隣にある小学校で塗装ボランティアを実施しています。児童が小学校の外壁に壁絵を描くための塗料を提供するほか、社員の手によって門扉や遊具の塗り替えなどを行っています。塗り替えは

一日作業になりますが、喜んでくれる子どもたちのために、社員数十人がすすんで作業にあたっています。当社は品川区の事業である「しながわCSR推進協議会」発足時からの会員企業であり、今後もこのような活動を続けてまいります。



# 三菱鉛筆株式会社

## 日本で初めて国産鉛筆の工業生産を実現

創業  
131年

創業：1887(明治20)年  
資本金：44億9700万円  
本社所在地：東京都品川区東大井5-23-37  
電話番号：03-3458-6221(代表)

代表者：代表取締役社長 数原 英一郎  
従業員数(連結)：3427名  
売上高(連結)：647億1600万円 \*2016年12月31日現在  
URL：http://www.mpuni.co.jp/



左上 クセになる、なめらかな書き味「ジェットストリーム」

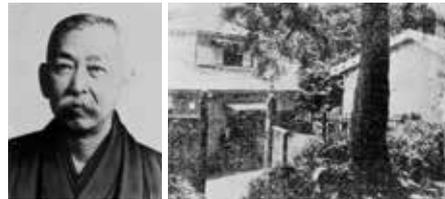
右上 芯が回転するシャープ「クルトガ」

左下 1901年に採用された「局用鉛筆」



### 独学で製造方法を研究 日本で初めて鉛筆の工業化

1878(明治11)年のパリ万国博覧会で、外国製の鉛筆に感動した眞崎仁六は、帰国後、独学で研究を始めました。試行錯誤を重ね、芯、軸の製造方法を研究した眞崎が、1887(明治20)、眞崎鉛筆製造所(後の三菱鉛筆株式会社)を設立したことが始まりです。鉛筆が貴重品として扱われていたなか、当時の逓信省(現・総務省)に1901(明治34)年、眞崎の『局用鉛筆』が逓信省御用品として採用されたことで事業は軌道にのりました。これを記念して、このとき納入した鉛筆の3種類の硬度と眞崎家の家紋



左 創業者・眞崎仁六  
右 当時の鉛筆工場

「三鱗」を図案化し、三菱マークを考案。“三菱”マークと「三菱」という商標は、1903(明治36)年に商標登録されました。余談ですが、戦後GHQより、当社は財閥系列と勘違いされ、財閥解体の一環で商標の使用禁止を迫られるという窮地に立たされました。当時の社長が先頭に立ってGHQに何度も足を運び説明を重ね、製品に明記することを条件に使用が許可され、その危機を乗り越えました。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



5代目 代表取締役社長  
数原英一郎

### 高級鉛筆『ユニ』の開発

戦後復興期の1958(昭和33)年に発売した、高級鉛筆『uni』は時代を画する商品です。当時の技術部長が欧米の鉛筆業界を視察、他社にない日本独自の製品を作らねばならないと痛感したことをきっかけに開発はスタートしました。当時の三菱鉛筆の最高級品が1本20円の時代、外国製と同じ1本50円という高価格でしたが、建築家などのプロだけでなく、子どもたちからも憧れの商品として人気を博し、予想を上回る売れ行きとなりました。uniは英語のunique「唯一の」を意味しています。

### 地域とともに ■「わくわく“楽描き”イベント」を開催

2016(平成28)年6月、大井町本社ビル建て替えに伴い、解体される旧本社ビルの壁や床に、ポスカで自由に“楽描き”できるイベントを実施しました。対象は3歳から15歳までの子どもたちと、その保護者の皆様。普段なら叱られてしまう

ような窓ガラス、壁、床などへの“楽描き”に、子どもたちは大喜びの様子でした。旧本社での最後のイベントに、地域の皆さんをはじめ2000名を超える方々にご参加いただき、「かく」楽しさを改めて感じていただけるイベントとなりました。



# 株式会社加藤製作所 PROGRESS TO THE NEXT STAGE

**創業**  
**122年**

創立：1895(明治28)年  
 資本金：29億3,589万円  
 本社所在地：東京都品川区東大井1-9-37  
 電話番号：03-3458-1111(代表)

代表者：代表取締役 加藤 公康  
 従業員数：690名(連結1210名)  
 売上高：754億円(2016年度)  
 URL：http://www.kato-works.co.jp/

\*2017年6月1日現在

大手企業



左 本社工場  
 中 最大吊上げ荷重300tのクレーン車  
 右 30tクラスの油圧ショベル



## 我が社の百年譚 機関車からクレーン車等の建機製造へ 現在、6年連続国内トップシェア

当社は、「優秀な製品による社会への貢献」を経営理念として120余年を歩んできました。創業は1895(明治28)年で、個人事業として立ち上げた「加藤鉄工所」が始まりです。1923(大正12)年には産業用内燃機関車および鉄道用モーターカーの製作に成功し、鉄道省の指定工場になりました。1935(昭和10)年には個人事業を改組し、株式会社加藤製作所を設立、現在に至ります。戦後、内燃機関車等は衰退し、1960年代には転換点を迎えました。当社はクレーン車や油圧ショベル等の建設機械分野にシフトし、



左 戦前に製造していたガソリン機関車  
 右 昭和17年製のクレーン車

それまでに培った技術とパイオニア精神で、画期的な製品を生み出してきました。1970(昭和45)年には東証一部上場を果たし、1980年代には現在の主力になっているラフテレーンクレーン等の製造を開始。操作性や安全性の高さに定評のある「KATO」ブランドのクレーンは、国内トップシェアを誇ります。今後は日本で得た信頼を世界へ発信し、世界的企業としての地位を固め、製品ラインナップの充実、販売拠点の拡充を進めてまいります。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の道標



4代目 代表取締役  
 加藤 公康

## 国外にも生産拠点を設け、販路を広げた

2004(平成16)年に私が4代目の社長に就任しました。業績が落ち込んだ苦しい時期の事業承継でした。当時、建機の需要は国内ではすでに頭打ちで、飽和状態になっていました。そこで苦境を乗り越える方策として、海外展開をそれまで以上に強めたのです。2006年には中国に自社工場を設立して油圧ショベルの生産拠点とし、販路を広げました。さらに2016年には、東南アジアや中東向けの大型クレーンの生産および販売の拠点となる工場をタイに設立。これらが功を奏して業績は回復し、さらなる発展を目指しています。

地域とともに

## ■ 地元の中学生の社会見学を受け入れ

本社近隣にある区立東海中学校の生徒の社会見学を毎年受け入れています。本社敷地内の施設には、我が社のクレーン車第一号機のほか、それ以前に製作していたトラクターや内燃機関車などがあり、中学生たちに見学してもらっています。また、油圧ショベルを係員が動かして、どのような動きをするかなどを実際に見てもらったり、運転席に乗ってもらったりして、建機を体験してもらっています。そのほか、南品川にある東京健康科学専門学校・ウェルネススポーツセンターをサポートし、栄養士・トレーナー等の育成、子供たちの水泳教室を応援することで、地域に貢献しています。



製造業(発電・変電など電気設備、各種産業向けコンポーネント製品など)

# 株式会社明電舎 電気機器製造業のパイオニア

**創業**  
**120年**  
創業：1897(明治30年)  
資本金：170億7千万円  
本社所在地：東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower  
電話番号：03-6420-8400(大代表)

代表者：取締役社長 浜崎 祐司  
従業員数(連結)：8,474名  
売上高(連結)：2,201億4,100万円  
URL：http://www.meidensha.co.jp/

\*2017年3月31日現在



①



②



③

- ①海外電力向け変圧器
- ②移動用電源車
- ③自動車試験装置



EV・PHEV用モータ

大手企業

## 我が社の百年譚 **独自設計のモータを開発し、「モートルの明電」と称賛**

初代社長の重宗芳水<sup>しげむねほうすい</sup>は、14歳で日本初の重電機メーカー・三吉電機工場に入社しました。旺盛な探求心と先見性により社内でも高く評価されましたが、1890年代後半、不況により会社が倒産寸前に。そこで芳水は退職し、国産の電動機(モータ)を製造するための工場を開設。これが明電舎の始まりです。創業当初は輸入品の発電機や電動機の修理、スイッチの製造などを行っていましたが、その後、扇風機、制御器具、電灯器具、配電盤などを経て、発電機や電動機の製造へと事業を展開。1906(明



左 創業者 重宗芳水  
右 大正時代の工場

治39)年には、独自の設計法による電動機の製造を本格的に開始しました。これが各業界に広く使われると、当社は「モートル(モータ)といえば明電舎」との称賛を込めて「モートルの明電」と呼ばれました。第一次世界大戦後に発電機や変圧器、電動機の需要が高まり、事業はさらに拡大。当社の社会インフラや産業に貢献する事業構造は、こうして形成されました。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

#### 転換点の道標 **人を大切にする経営**



14代目 取締役社長 浜崎 祐司

長きにわたる歴史の中で、当社は業績の低迷などにより幾度かの危機的な状況に陥りました。そのような状況下にあっても、基本的な考え方は「人は財産」です。需要の低迷で1990年代後期に一度だけ早期退職優遇制度を実施しましたが、ほかに人員削減などの厳しい施策を打ったことはありません。優れた製品やサービスを生み出すのは「人」です。「人」を大切にする気持ちなくして、当社のこれまでの歴史も、これからの将来もないと考えています。

#### 地域とともに **小学校で「ものづくり教室」を開催**

創業110周年を機に、2007(平成19)年度から小学6年生を対象に開催しています。つくるのは、モータで回りながら走り、障害物に当たるとゴロンと向きを変えてまた走り出すボール型のおもちゃです。1人1個ずつ組み立て、完成後は体育館で

転がして遊びます。品川区では、重宗芳水の妻で2代目社長のたけが創設した芳水小学校など、毎年4~5校で開催しています。全国では、これまで10年間で7,000人以上の児童に、この教室を通してものづくりの楽しさを伝えてきました。



# 光村印刷株式会社 ともにつくり、ともに伝える。

**創業**  
**116年**

創業：1901(明治34)年  
資本金：56億788万円  
本社所在地：東京都品川区大崎1-15-9  
電話番号：03-3492-1181

代表者：代表取締役社長 阿部 茂雄  
従業員数(連結)：766名  
売上高(連結)：173億7714万円  
URL：http://www.mitsumura.co.jp/

\*2017年3月末現在



左 1996(平成8)年竣工の本社ビル  
中 新聞、雑誌、図録、帳票など幅広く印刷物を手がける  
右 世界最大最多色の木版画「孔雀明王像」を再現

大手企業

## 我が社の百年譚

### 美術印刷で名を馳せる老舗 現在は印刷事業以外も手がける

1901(明治34)年に光村利藻が設立した関西写真製版印刷合資会社が当社のルーツです。利藻は幼少の頃から美術品に親しんでおり、「美を再現し、多くの人に感動を与えたい」という想いから起業しました。また、日露戦争時には写真班を派遣し水師營の会見の撮影にも成功したほか、関東大震災時には被災地の写真を載せた絵はがきを製作し、報道面でも高い評価を受けました。1928(昭和3)年に社名を光村原色版印刷所と改称し、1934(昭和9)年に当地品川に本社、写真スタジオ、印刷工場を建設。戦後は上場を果たすなど順調に発展しました。その後、



昭和初期の品川居木橋から望む当社

印刷産業も機械化や電子化が急速に進み、当社の社名の由来でもあった原色版印刷から、現在主流のオフセット印刷へ製法を転換しました。1991(平成3)年には創業90周年記念事業として、世界最大最多色の木版画「孔雀明王像」の復元事業に取り組むかたわら、生産施設を集約。社名も光村印刷株式会社へと変更しました。現在は印刷事業のほか、デジタルコンテンツや、タッチパネルなどの電子部品なども手がけ、幅広く社会に貢献しています。

## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

### 転換点の道標



9代目 代表取締役 阿部 茂雄

### ソリューション型のビジネスモデルへの変革を

近年、印刷業界は市場の縮小やニーズの多様化など、急速な変化にさらされています。そのため、印刷を軸にしつつデジタルコンテンツの制作やエレクトロニクス製品の製造へと事業領域を拡大。今年度からは「変革、挑戦、お客様第一」を行動規範とし、事業の再構築に取り組んでいます。当社は創業以来、時代時代の最先端の印刷技術と美の再現への探求心を携えて事業を継続してきました。今後は印刷技術をベースにした新たな商機を探求し、多様なメディアと連動した仕組みづくりなど、ソリューション型のビジネスモデルに変革・展開し、新たな需要創出を目指します。

## 地域とともに

### ■「感動伝達」をコンセプトにしたメセナ活動

100余年にわたる社歴の中で、多くの美術書や写真集を世に出してきました。企業コンセプト「感動伝達」を事業として実践するため、芸術がもたらす感動を多くの人々に伝えるべく、メセナ活動に力を入れています。1997(平成9)年にMGG(光

村グラフィック・ギャラリー)を開設し、以来、無料で開放してさまざまな芸術・文化を発信。一般のお客様のほか、印刷業界やデザイン業界の方など幅広い来場者があります。さらには、地域の小学校や専門学校の課外活動の場としても活用されています。



# 三和テッキ株式会社

内外問わずすべての人々の和を尊ぶ「三和」精神

創業  
110年

創業：1907(明治40)年  
資本金：4億2380万円  
本社所在地：東京都品川区南品川6-4-6  
電話番号：03-3474-4111

代表者：代表取締役会長 小野 和男、代表取締役社長 宇佐美 道雅  
従業員数：415名  
売上高：123億円  
URL：http://www.tekki.co.jp

\*2017年3月31日現在



左 本社社屋

上段左 整備新幹線用の可動ブラケットとハンガイヤー

上段右 メカニカル防振器

代表取締役会長小野和男(左)  
代表取締役社長宇佐美道雅(右)



## 日本初の電車線金具製造会社に始まり 複数の基幹産業の一翼を担う存在に

創業者は東京電気鉄道の電気技師であった馬來晃です。電車線金具の国産化を目指し、1907(明治40)年に従業員20人ほどの馬來製作所を設立。大正になり電気鉄道建設が高まる中、電車線金具の設計製造技術で先んじていた当社は、この分野で確固たる地位を築きました。戦後、三和鉄軌工業株式会社と社名を改め、新たに出発しました。その後、国鉄電化などにより、昭和30年代に経営規模が急拡大。1957(昭和32)年には、電力会社の送変電市場にも進出しました。鉄道のみならず電力・プラント分野にも参



左 旧本社工場正門

右 創業当時の製品「馬來式架設材料」が設置された架線

入したため、1973(昭和48)年には現在の社名「三和テッキ」に変更。電車線金具だけでなく、送変電用機械・工具・金具、発電所用管系支持装置など、後に当社の柱となる鉄道・電力・プラントという3分野それぞれに事業を拡大しました。現在は鉄道部門では架線金具の、プラント部門では原子力発電所向け管系支持装置のリーディングカンパニーとしての基盤を確立。電力部門では、金具類の販売だけでなく、鉄塔建設用クレーンメーカーとして貢献しています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



代表取締役社長  
宇佐美 道雅

## 戦時体制下、外地向け製品の生産で活路を開いた

時代によって大なり小なりの危機はあったかと思いますが、社史として記録されているのは、昭和初期の相次ぐ恐慌の影響により、メーカー間の競争が激しくなり、苦しい経営を強いられたこと。同時期に吸収合併したライバルメーカーの所在地である南品川を本拠とし社員一同奮闘しましたが、戦時体制下には国内の鉄道電化が進まず、外地向け製品の生産に活路を求めました。現在は鉄道・電力・プラントという複数のインフラ関連分野で、安定した経営を続けています。

## 地域とともに

## 品川区の事業に積極参加し、地域貢献

当社は「しながわCSR推進協議会」の会員で、社会貢献活動の一環として区内各所でゴミ拾いや花壇の整備等の清掃美化活動に参加しています。毎月1回、当社周辺の清掃美化活動を行い、年間を通じて全員が参加することにより、社員の美化意識の醸成を

図っています。また、大井町三商店街が主催する「スポーツGOMI拾いin大井町」にも積極的に参加。その他にも、未来協育推進機構が主催する「しながわ職場あるき」にも参画しています。今後も地域との連携を大切にして、活動を広げたいと思います。



卸売・小売業(産業用金具・ハードウェア設計・販売)

# タキゲン製造株式会社

鍋・釜の販売から  
産業用金物の総合メーカーに

創業  
107年

創業：1910(明治43)年  
資本金：4億6,000万円  
本社所在地：東京都品川区西五反田1-24-4  
電話番号：03-3492-2001

代表者：代表取締役 瀧源 愛子  
従業員数：510名  
URL：https://www.takigen.co.jp/

\*2017年1月末現在

大手企業



1958年発行の総合カタログ1号



日本最大級の製品ラインナップ



ロングセラー「防水ハンドルA-140シリーズ」



## 鋭い観察力が 主力商品の開発につながった

当社は、1910(明治43)年に、鍋や釜などを販売する瀧源商店として創業しました。戦争で多くを失いましたが、終戦の翌年には事業を再開。戦後、五反田周辺には配・分電盤BOX(変電設備を収納する金属製の箱)の製造業者が多数存在しており、当社の営業先でもありました。そんな折、行く先々で配・分電盤の付属金物を目にしていた初代の瀧源秀昭があることに気づきます。それは、BOXのハンドルの形状や材質がメーカーによって異なるということでした。そこで、取引のあった町工場に相談し、ダイカスト製法(高い寸法精度の鋳物を短時間で大量生産できる



1969(昭和44)年当時の社屋



方式)でハンドルをつくったところ、「安価で使い勝手もいい」と評価され、今なお売れ続ける主力商品となったのです。現在、当社では約8,000種類の製品を取り扱っていますが、これは、工場を持たないファブレス経営だからできること。生産を外部の協力工場に委ね、経営資源や人材を製品開発や営業に集中させてきたことが、今につながっているといます。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



3代目 代表取締役  
瀧源愛子

## 家族同然の結束力に勝るものはない

当社の社是は「人材の育成」。行動規範は「即断実行」。経営理念は「感謝」です。当社にとって、社員とその家族は、タキゲンファミリーの一員。こうした考えに基づいて、これまでの危機を乗り越えてきたように思います。優秀な人材が、家族同然の結束力で、迅速に実行し、協力工場をはじめとした関わるすべての人たちに感謝をする。これに勝る武器はありません。これからも、社員、家族、協力工場の三位一体で、ここ品川区で奮闘していきたい考えです。

地域とともに

## ■ 各支店で「職場体験」に協力

これまでタキゲンでは、中学校の職場体験学習に協力しています。きっかけは、中学生の子どもを持つ社員から「学校が職場体験をさせてくれる企業を探している」と相談されたことでした。当社としては「未来のもの

づくり人材の育成に」との思いで、快諾した次第です。当日は、主力商品の1つである産業用錠前の構造を説明し、サンプルの錠前を組み立てる作業を行いました。生徒さんたちの真剣な表情がとても印象的でした。



# 大崎電気工業株式会社

## Global Energy Solution Leader

創業  
101年

創業：1916(大正5)年  
資本金：79億6575万円  
本社所在地：東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア  
電話番号：03-3443-7171(代表)

代表者：代表取締役社長 渡辺 光康  
従業員数：3,078名(連結)、463名(個別)  
売上高：861億円  
URL：http://www.osaki.co.jp/

\*2017年3月31日現在



大崎電気工業本社



現・主力商品のスマートメーター



1949(昭和24)年に誕生した  
当社第一号の電力量計

大手企業



### 我が社の 百年譚

### 電気器具製造の個人商店から 世界的なソリューションリーダーに

当社のルーツは、1916(大正5)年に創業した弘業製作所にさかのぼります。1937(昭和12)年に株式会社化し、電流遮断器などを主製品にしておりましたが、1941(昭和16)年に大崎工業と合併。社名を現在の大崎電気工業株式会社に改め、社長に渡邊一が就任しました。戦中には計器用変成器などを製造して事業基盤を確立。戦後は焼失した工場を復興して積算電力計市場に進出しました。高度成長期には社長の渡邊和美の積極経営が功を奏し、とりわけ電力会社と合併会社を設立したことが大き

な転機となり、事業を拡大。1980(昭和55)年に東京証券取引所市場第一部に上場(第二部より指定替え)しました。1988(昭和63)年に渡辺佳英が社長に就任し、次代を見据えた経営改革を推進。近年ではM&Aにより、2007年に関西圏の事業基盤を強化、2012年には海外の電力量計メーカーを子会社化して、海外売上比率を大幅に拡大しました。2014(平成26)年に、渡辺光康が社長に就任し、“Global Energy Solution Leader”をビジョンに掲げ、経営を推進しています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



5代目 代表取締役  
社長  
渡辺光康

### 様々な危機に対してトップ主導で迅速に対応

第一次オイルショック時の1973年、原材料価格の高騰等により、当社経営は危機に直面しました。当時の社長は迅速に対策本部を設置し、製品の更なる原価低減、各種費用の削減に努めるとともに、お客様である電力会社への供給責任を果たし続け、赤字を出すことなく乗り切りました。また、1998年のバブル経済崩壊後の経営危機時には、当時社長のリーダーシップのもと迅速に対応し、低採算部門の抜本的改革等により業績がV字回復しました。なお、1962(昭和37)年の株式上場以来、黒字経営を継続中です。

### 地域とともに

### 区内の小学校でハンドボール教室を実施

当社のハンドボールチーム「大崎オーソル」は1960(昭和35)年に創部し、全日本実業団選手権10連覇、国体10連覇など数々の大会優勝の実績があります。近年、地域への社会貢献活動の一環として区内小学校に選手を派遣し、ハン

ドボール教室を開いています。走る・投げる・飛ぶといったハンドボールのさまざまな動きやゲームを通し、体を動かすことの楽しさやスポーツマンシップを児童に伝えるこの催しは、先生方や児童に好評です。



製造業(産業機械軸受、精密機器関連製品、自動車軸受、自動車部品等の製造販売)

# 日本精工株式会社 日本で初めて軸受(ベアリング)を開発・量産

創業  
101年

創立：1916 (大正5)年  
資本金：672億円  
本社所在地：東京都品川区大崎1-6-3 (日精ビル)  
電話番号：03-3779-7111 (代表)

代表者：取締役 代表執行役社長・CEO 内山 俊弘  
従業員数(連結)：31,501名  
売上高(連結)：9,492億円  
URL：http://www.nsk.com/jp/

\*2017年3月31日現在

大手企業



風力発電機用軸受には、20年間メンテナンスなしで回転続ける信頼性が求められます



1台の車には、100～150個の軸受、ステアリング、変速機部品など多くの部品が使われています



NSKが生産した大型軸受



## 日本の近代化を推進し、世界的軸受メーカーへ

初代社長の山口武彦は特許局を退官し、2年の欧米視察後、洋釘の国産化や機械輸入商社の山武商会(現・アズビル)、工業用酸素メーカーの日本酸素(現・太陽日酸)を設立。その後、産業を支える機械部品である軸受の将来性に着目し、1914年に当社の前身である日本精工合資会社を設立しました。当時、日本で最高の技術力を持つ海軍が実現できなかった軸受の開発に挑戦、1915年に日本初となる軸受を完成。翌年、量産のため当社を創立しました。大戦中は、日本最大の軸受メーカーとして国の増産要請に



左 初代社長 山口武彦

右 昭和初期の研磨ライン(1930年本社工場(大崎))

応え、戦後は生産の拡充や効率化、新製品開発を進め、自動車、鉄道車両、紡績、鉄鋼、家電などさまざまな産業に製品を供給し、日本の復興、高度経済成長に貢献しました。現在では、世界有数の軸受メーカーとして、世界トップレベルの高品質な軸受、工作機械やIoTを支える精機製品、省エネ・安全を支える自動車部品などを供給し、産業の発展と環境保全に貢献しています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の道標

#### 「選択と集中」で事業を改革



10代目 取締役 代表執行役社長・CEO 内山 俊弘

当社は、精密加工をはじめとする軸受技術の活用や海外企業との提携によって1950年代後半から事業の多角化を進め、自動車用のステアリング、シートベルト、自動変速機用部品、さらには工作機械に使われるボールねじなどの製品を生み出し、時代をリードしてきました。その後の環境変化や経済危機の中、シートベルト事業などの不採算事業から撤退し、中国などの新興国市場や電動パワーステアリングなどの成長分野市場に集中投資を行うことなどで、収益性と成長を実現してきました。

### 地域とともに ■ 社会に貢献し、ともに成長を続ける

当社は、世界30カ国で事業を展開する売上高約1兆円のグローバル企業に成長しました。創立100周年の前年2015(平成27)年には、10年後のありたい姿として『NSKビジョン2026』を策定。「あたらしい動きをつくる。」ことで「円滑で安

全な社会」と「地球環境の保全」に貢献し、社会とともに成長を続けていきます。翌年にはこの新しい動きを紹介するさまざまなイベントを実施したほか、「(財)NSK奨学財団」の設立や品川区内の児童への自転車用ヘルメット寄贈を実施しました。



製造業(光学機械器具の製造ならびに販売)

# 株式会社ニコン 日本を代表する光学機器メーカー

創業  
100年

創業：1917(大正6)年  
資本金：654億7,600万円  
本社所在地：東京都港区港南2-15-3 品川インターシティ C棟  
電話番号：03-6433-3600(代表)

代表者：代表取締役 兼 社長執行役員 牛田 一雄  
従業員数：25,031名  
売上収益(連結)：7,492億7,300万円 \*2017年3月31日現在  
URL：http://www.nikon.co.jp



一眼レフカメラ「Nikon F」1959年 発売



左上 デジタル一眼レフカメラ「D850」  
2017年発売

右上 超広角走査型レーザー検眼鏡  
「California」2015年発売

左下 FPDスキャナー「FX-68S」2016  
年発売



## 光の可能性に挑み、 進化し続ける

ニコンの前身である日本光学工業が設立された翌年の1918(大正7)年、大井製作所(当時：大井工場)が新設され、企業活動の拠点となりました。京浜東北線大井町駅(当時：京浜線大井町駅)から工場までの約1キロメートルの道は多くの社員が通勤に使用。優れた光学機器の国産化を目指して通い続けた道は、いつしか「光学通り」と呼ばれるようになりました。大井製作所に1933(昭和8)年に完成した101号館(当時：1号館)では、1948(昭和23)年発売の小型カメラ「ニコンI型」、1959(昭和34)年発売のニコン初のレンズ交換式一眼レフカメラ「ニ



左 1933年竣工。4階建て大井新工場1号館

右 2016年3月。取り壊し直前の101号館

コンF」などを生産してきました。101号館は2017年に解体されましたが、ニコンファンの方々からは「聖地」とも呼ばれ、社員含め多くの方の心に強く、深く刻み込まれています。ニコンは創立以来、光を見つめ、光を追求し、光の可能性に挑み、光学技術の先駆者としての道を国内外で切り開いてきました。100年のご愛顧に感謝し、企業理念である「信頼と創造」をこれからも掲げ、希望に満ちた未来の実現を目指します。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



代表取締役 兼  
社長執行役員  
牛田 一雄

## 高品質な「ものづくり」の精神を代々受け継ぐ

創立以来、光利用技術と精密技術をベースに、映像文化や学術、産業の発展に貢献するとともに、未知の領域を切り開く製品を提供してきました。事業環境の激変に対応して多くの困難を乗り越え、ニコングループは、2017年7月25日に創立100周年を迎えました。その間、質実剛健ともいえる社風にはぐくまれ、高品質な「ものづくり」の精神を代々受け継いできました。ニコングループは新たな価値を提供し、次の100年においても、人々の暮らしに貢献する企業グループであり続けたいと思います。

### 地域とともに

## 品川区内の中学生が職場を訪問

毎年、品川区内の中学生が課外授業として大井製作所を訪問しています。ニコンの事業や製品、担当業務の説明のほか、仕事の難しさや面白さなどを伝えました。社員とのふれあいや質疑応答を通して生徒が社会

における企業の役割を理解し、将来の生き方を考えるとともに、将来進む道を考える上で役立つことを期待しています。今後も地域の方々とのさまざまな活動を通じ、社会や地域への貢献活動を続けていきます。



大手企業

# 東洋製罐グループホールディングス株式会社

包みのテクノロジーを  
基軸として、人類の  
幸福に貢献する

創業  
100年

創立：1917(大正6)年  
資本金：110億9,460万円  
本社所在地：東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング  
電話番号：03-4514-2000(代表)

代表者：代表取締役社長 中井 隆夫  
従業員数：397名(連結18,490名)  
売上高：7,794億円(2016年度) \*2017年3月31日現在  
URL：http://www.tskg-hd.com/



右上 飲料用の缶、ペットボトル、ガラスびん  
右下 飲料用のガラスびんとマキシキャップ、  
コーヒー用カップ

大手企業



## 包装容器づくりのリーディングカンパニー 時代のニーズに応えた包装容器を 供給し続ける

1917(大正6)年、米国で缶詰事業に携わった高崎達之助が、日本でも缶詰業と製缶業の分離が必要と感じ、大阪で東洋製罐株式会社を創業しました。その2年後には米国から自動製缶機を購入し、ぶりき製の缶詰用缶の製造を開始。需要の拡大にともない、この東五反田に東京工場を建設しました。同工場には大型ぶりき印刷機を導入して製缶事業をさらに拡大し、関東大震災を機に缶詰用缶のほかにも美術缶などの需要が増加したことから、工場を増築して生産規模を上げていきました。戦後しばらくは物資不足から紙製缶を製造していましたが、次第にぶりき製の缶



昭和20年代東京工場



昭和20年代自動製缶機

主体に戻り、1967(昭和42)年には美術缶の専門工場となりました。2000(平成12)年に横浜工場との統合により東京工場は閉鎖され、その跡地に現在本社が置かれる大崎フォレストビルディングが2011年に竣工。2013年に持株会社体制に移行し、現社名に商号変更しました。当社グループには包装容器の各分野のトップメーカーがそろい、その優れた技術力で包装容器業界を支えています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



代表取締役社長  
中井 隆夫

## 世の中のニーズに合わせて事業を組み替えてきた

1917年創業時の製品は、水産・畜肉・果物などを入れるためのぶりき缶でした。その後、アルミ缶、PETボトル、パウチと世の中のニーズに合わせて事業の組み替えを行ってきたことが、現在まで事業を継続できた大きな要因だと考えております。現在、グループ全体の売上高に占めるぶりき缶の売上は僅か数%です。これからも容器は重くて硬いものから、軽くて柔らかいものへと変遷していくと思います。常に時代を先取りし、新しいイノベティブな商品を世界に提供し続けることで人類の幸福に貢献してまいります。

### 地域とともに

## ■ 地域の豊かな都市環境の一翼を担う施設を目指して

本社ビルの1階に容器文化ミュージアムを設置し、容器包装の文化情報の発信や、夏休みイベントなどを開催して、地域の方をはじめとするさまざまな人々の交流に貢献しています。品川区のまちづくりビジョン「ものづくり

産業をリードする街」「地域産業と住宅との調和のとれた街」を具体化する施設を期待する地域社会の思いと、本社ビルにふさわしい文化・情報の積極的な発信機能を持ちたいという当社の思いが重なって、開設に至りました。



## 顕彰事業所と都市型観光

—しながわならではの都市型観光の鍵に—

区は平成28年3月、「繰り返し訪れて楽しいまち しながわ ～日常の生活環境に着目した官民連携による都市型観光の推進～」というコンセプトを掲げた「品川区都市型観光プラン」を策定しました。同プランではこの地域の暮らしや生活文化に根ざした資源をとおして来訪者が区民と交流することを意図し、「くり返し訪れて楽しめる」観光都市を目指すものです。

区内には単体で強い集客力をもつ観光資源はありません。しかし、まちを歩けば、幕末～明治の歴史を感じられるスポットや自然豊かな水辺・公園、個性的な商店街など、しながわならではの多様な観光資源が点在しています。地域の歴史や生活の営みに根ざしたこのような資源は、見せ方や伝え方の工夫次第で来訪者を魅了することができます。この点で、しながわのまちは、まちを歩きながら、まちの歴史や生活、まち自体を楽しむ、都市型観光に適しているといえます。

本冊子で取り上げる顕彰事業所のうち、21所が小売店ないし飲食店です。商店街に軒を連ねているところも多く、上記のような都市型観光において重要な役割が期待されます。それら



顕彰事業所が建ち並ぶ旧東海道を舞台に催される「しながわ宿場まつり」  
(出典：しながわ百景 品川地区101)



2016年3月に品川区が発行した『品川区都市型観光プラン』

の事業所のほとんどは幕末～明治期の創業であり、取り扱う商品はこの地域の歴史と関連するものが多いことから、しながわへの関心を深めるきっかけとなりえます。

例えば、海苔です。かつて品川が海苔の名産地であったことは、古くからの住民にとっては「当たり前」のことで、広く周知されているわけではありません。海苔店を訪れたことをきっかけに、浮世絵にも描かれた品川沖の豊かな海のことを知り、品川浦の水辺空間などへ足を向けるといったまち歩きも想定できます。また、対面式の商店は客との対話を大切にしているため、来訪者は店主や店員と気軽に会話することができます。100年以上にわたって「のれん」を受け継いできた老舗の店主の言葉は含蓄に富み、来訪者にとって印象深い思い出になることでしょう。



品川宿の様子を描いた歌川広重（初代）の浮世絵「東海道五拾三次之内 品川日之出」

三河屋（P.24に掲載）の山田和美さんは自身の経験から、「いまの外国人は『本物』を見に来ている。過度に気を回したもてなしをするのではなく、ありのままを体験してもらうことが正解ではないか」と話しました。これは外国人に限った話ではなく、都市型観光の愛好者たちに向けても同じことがいえます。自分たちと違う環境で暮らす人々の日常に「魅力的な非日常」を感じて楽しむわけですから、「しながわらしさ」のあるまちづくりが求められています。そのような流れの中で、「まちの顔」である顕彰事業所は、区の都市型観光にとって鍵となる存在といえるのです。

# 学校法人攻玉社学園 他山の石以って玉を攻くべし

**創業**  
**154年**  
開校：1863(文久3)年  
所在地：東京都品川区西五反田5-14-2  
電話番号：03-3493-0331

代表者：学校長 今西 理朗  
教職員数：131人  
URL：<http://www.kogyokusha.ed.jp/>



左 校舎正門  
中 創立者・近藤真琴先生像  
右 資料展示室にある著名な卒業生の肖像

学校



## 時代が求める人材を世に送る

1863(文久3)年に、鳥羽藩士だった創立者・近藤真琴先生が外国を「他山の石」に見立てて起こした蘭学塾がルーツです。現在、「時代が求める人材を世に送る」べく、完全中高一貫の普通科のみですが、明治～昭和にかけては航海術や測量術、女子科、土木科、商業学校など、さまざまな学校を設置していました。1923(大正12)年の関東大震災で、現・港区浜松町一丁目にあった校舎が壊滅的な被害を受けたため、その2年後に当地に移転。以来92年にわたってこの西五反田の地で教育活動を続け、中には祖



左 創立者の肖像等の展示  
右 昭和40年代の航空写真

父の代から三代続けて学んだ人もいます。また、1931(昭和6)年から43年間、商業学校(のちに商業高等学校)が開設されていたことから、武蔵小山や戸越などの区内の商店街にも本校出身者が多く、地域の商業活動に貢献しています。創立者の遺訓・建学の精神や校訓「誠意・礼讓・質実剛健」を身につけさせる人間教育と、生徒全員の難関大学進学を実現させるための学習教育を両輪として、快適な教育環境を備えた都内屈指の進学校を目指しています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



中学校教頭  
内海 宏隆

## 「六年制少数英才開発教育」により差別化

第一次ベビーブーム生まれの生徒が卒業した1965(昭和40)年頃、多くの私立中学・高校は志願者数の減少に頭を悩ませました。本校も例外ではなく、その打開策として「六年制少数英才開発教育」を打ち出し、進学校を標榜しました。その後、校内暴力の問題や、都立高校の大学進学実績の停滞などにより、私立中学受験に注目が集まりました。本校も徐々に志願者が増加し、進学校としての実績を重ね、相応の評価を得るようになりました。半世紀前に中高一貫教育の先鞭をつけたのは英断だったと思います。

## 地域とともに

## ■地域の社会奉仕活動を続けるボランティアクラブ

本校には地域の奉仕活動をするボランティアクラブ(以下「VC」)があります。前身のインターアクトクラブ(以下「IAC」)から25年以上活動しています。「IAC」は、地域のロータリークラブと提携し、赤い羽根やあしなが育英会の募金

を駅頭等で行っていました。「VC」になったからは、学校近隣の氷川神社の清掃をするなど、より積極的に活動しています。自主的に地域に貢献することが校訓「誠意・礼讓・質実剛健」の実践となり、生徒たちの成長につながっています。



# 学校法人立正大学学園

真実を求め人類社会の  
平和の実現を念願する

創業  
145年

開校：1872（明治5）年  
本社所在地：東京都品川区大崎4-2-16  
電話番号：03-3492-2681（品川キャンパス）

代表者：理事長 古河 良皓  
教職員数：589人  
URL：http://www.ris.ac.jp/rissho\_school/



左 立正大学品川キャンパス正門  
中 建学の精神が刻まれたモニュメント  
右 本学の名称は日蓮聖人の『立正安国論』に由来



## 僧侶の教育機関から 総合大学へ

本学のルーツは1580（天正8）年に千葉県に開設された飯高檀林（日蓮宗の教育機関）にさかのぼります。独立した教育機関として、本学の起点とするのは1872（明治5）年に現・港区高輪に設立された小教院で、立正大学として一般学生にも門戸を開いたのは1924（大正13）年のことです。1949（昭和24）年には学校教育法により新制大学として認可され、その2年後には財団法人立正大学から現在の学校法人立正大学学園へと改組されました。当初は文学部と仏教学部のみでしたが、次第に学部学



左 1924（大正13）年頃の大崎校舎本館外観  
右 1926（大正15）年頃の大崎校舎全景

科を増やし、現在では品川キャンパスのほか、埼玉県熊谷市にキャンパスを構え、8学部15学科7研究科で1万人が学ぶ総合大学に成長し、安定した学校経営を行っています。本学では、校名の由来である日蓮聖人の『立正安国論』に基づき、「『正しき』を立て、国や社会、人々の安寧・平和の実現のために尽す」という社会的ミッションを掲げています。これは、仏教に限らない普遍的価値だと私たちは考え、社会一般に広く伝えることを目指しています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



理事長  
古河 良皓

## 戦後の経営危機を救った石橋湛山学長

戦後の昭和20年代、戦災や志願者減少などで財政基盤がゆらぎ、学校の存続が危ぶまれました。そこで、ゆかりのある人材の協力を得ることで立て直そうと画策。第一次吉田茂内閣で大蔵大臣を務め、後に内閣総理大臣になる石橋湛山先生を1952（昭和27）年に学長として迎えました。その後16年間、先生自身も教壇に立って金融論を講義するなど、教育にも携わりながら大学経営にあたりました。それが功を奏し、本学は健全な財政を回復して規模を拡大し、総合大学へとステップアップできました。

## 地域とともに ■品川区と連携し、地域に貢献

立正大学は品川区内唯一の総合大学として、2013（平成25）年に区と連携・協力に関する協定を結びました。区の放課後児童健全育成事業「すまいるスクール」で、学生が子どもたちの指導をする協定のほか、災害時に学校施設を避難所とし

て提供する協定などが締結されています。もともと1979（昭和55）年から区民に向けた公開講座を開いていた本学は、地域社会に開かれ、貢献することを是としていましたので、双方の思いが一致した取り組みとなっています。



# 学校法人三浦学園

建学の精神「愛」「和」「誠実」

創業

114年

開校：1903（明治36）年  
本部所在地：東京都品川区豊町2-16-12  
電話番号：03-3786-1711

代表者：理事長 三浦 洋義  
職員数：154名（非常勤含む）  
URL：http://www.miuragakuen.ac.jp/



左 大正14年に建てられた日本音楽高等学校1号館  
中 バレエレッスン室などがある日本音楽高等学校2号館  
右 1号館内にある個人レッスン室

学校



## 数多くの音楽教育者を輩出する わが国初の私立音楽学校

1903（明治36）年に山田源一郎が音楽遊戯と幼稚園教員の養成を目指して設立した、わが国初の私立音楽学校「音楽遊戯協会」がルーツです。その3年後に組織化した学校教育を始め、1927（昭和2）年には男女共学の日本音楽学校としてスタートを切りました。戦中には当時中野にあった校舎が陸軍に接収されることになりましたが、山田政三第3代校長が大森高等音楽院長の三浦泰に事業を託し、学校を存続させました。三浦泰は1944（昭和19）年、学校法人三浦学園を設立して初代理事長となり、1947（昭和22）年に校舎を現在の品川区豊町に移した後、附



左 創立者・初代校長  
山田源一郎  
右 現在地に最初に建てられた校舎（昭和20年代）

属幼稚園や小・中・高等学校を設置。さらにその後、中学校音楽教諭、幼稚園教諭、保育の養成科をそれぞれ設けて体制を整え、数多くの音楽教育者、幼児教育者を輩出してきました。2009（平成21）年には有明教育芸術短期大学を開設し、日本音楽学校を発展的に解消。現在は同短期大学、日本音楽高等学校のほか、幼稚園と保育園を併設し、「愛」「和」「誠実」という建学の精神の実践に努めています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の道標



2代目理事長  
三浦 洋義

## 度重なる災いを音楽教育への愛で乗り越えた

1923（大正12）年、関東大震災による火災で校舎が再び全焼しました。その危機に教職員が総力で立ち上がり、関西各地で「女子音楽学校復興資金募集演奏会」を開いて回り、再興を図るための寄付を集めました。また、東京への空襲がひどくなった太平洋戦争末期、初代理事長の三浦泰がピアノ十数台をはじめとする貴重な楽器類を、大変な苦勞をして疎開させました。そのおかげで戦後すぐから音楽教育の普及に携わることができました。当学園には、このような音楽教育への愛が代々受け継がれています。

## 地域とともに ■ 地域に開かれた教育を実践

日本音楽高等学校の恒例行事となっている総合学習上演発表「サウンド・オブ・ミュージック」を地域の皆さんに公開しています。2017年で15回目を迎えたこの催しは、教育成果の発表のみならずミュージカルへの関心を高める啓発活動となっています。また、「シ

ンデレラへの道」と本校生徒が命名したボランティア活動を15年間継続して行っています。荏原第五地区連合会の方々と地域清掃活動や、荏原警察署・防犯協会と協力した「痴漢撲滅キャンペーン」などの防犯啓発活動に取り組んでいます。



# 学校法人星薬科大学

「世界に奉仕する人材育成」を  
建学の精神として

創業  
106年

創業：1911年(明治44年)  
本社所在地：東京都品川区荏原2-4-41  
電話番号：03-3786-1011

代表者：理事長 大谷 卓男  
従業員数：130名  
URL：http://www.hoshi.ac.jp/



左 座席数1228のメインホール  
中・上 星薬科大学本館正面  
中・下 「近代日本の名建築」に指定された本館  
右 新星館内観



## 薬学を通して 生命と健康を守ることを目指す

本学の創立者である星一は、1906(明治39)年にアメリカから帰国し、星製薬所を発足。その後、星製薬株式会社を設立し、社内に教育部門を設けて教育を始めたのが当校の始まりです。1922(大正11)年、現在の住所に星製薬商業学校を設立し、以降も時代の流れとともに薬学を教える学校として規模を拡大。1950(昭和25)年に「星薬科大学」となりました。帝国ホテルなどの建築を手がけたフランク・ロイド・ライトを師とするアントニン・レーモンドが1924(大正13)年に完成させた記念大講堂は、関東



左 創立者 星一  
右 野口英世と星一

大震災や世界大戦を乗り越え、現在も「本館」として大学のシンボルになっています。戦後、経営難に見舞われた時期もありましたが大谷米太郎(ホテルニューオータニ創業者)によって経営が引き継がれ、本学は存続することができました。2011(平成23)年に創立100周年を迎え、「世界に奉仕できる人材の育成」という建学の精神に基づき、今日も伝統と先端研究によって新薬の種が誕生しています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



理事長  
大谷 卓男

## 医療の発展・教育への情熱

戦時中、空襲で本学の寄宿舎や実験室、木造校舎の一部が焼失しただけでなく、戦後には本校舎がアメリカ進駐軍により接収され、授業を続けるのが困難な状況でした。しかし、五反田の星製薬工場内に仮校舎を構え、約500名の学生の教育を継続させ、また1946(昭和21)年には全国に先がけて初めて男女共学制を採用し、学問の世界で男女平等の思想を掲げました。どんな状況下でも教育への情熱を持ち続け、医療の発達に生涯を捧げた創立者の理念を、現在まで大切にしています。

## 地域とともに

### 公開講座や薬草見学会を開催

品川区との共催で毎年さまざまな公開講座を行っています。春と秋に開催する「薬草見学会」は、専門家による身近な薬草についての講演だけでなく、大学構内にある文化施設や薬用植物園を在学学生が案内するキャンパスツアーも用意。地域の

皆さんに薬草や製薬に親しみを感じていただけるイベントとなっています。都内でも数少ない植物園は、約3,000㎡の広さに薬用を中心とした有用植物約1,000種が栽培されています。平成27年度は地域住民の方を含め568名が来園されました。



製造業(みそ製造)

# 八木合名会社仙台味噌醸造所

仙台藩士が愛したみそを  
現代に伝える



創業  
392年

創業：1625(寛永2)年  
資本金：200万円  
本社所在地：東京都品川区東大井4-1-10  
電話番号：03-3474-0505

代表者：代表社員 八木 忠一郎  
従業員数：不掲載



仙台藩ゆかりのみそ醸造所  
現在も昔ながらの製法で  
事業を続ける

この地はもともと、伊達政宗公を藩祖とする仙台藩の江戸下屋敷でした。当社のルーツは、そこに詰めた仙台藩士たちのために建てられたみそ醸造・備蓄設備にさかのぼります。時代が下って幕末頃になると、余剰分を一般に販売するようになり、商売の性格を持ちはじめました。明治維新後、みそ醸造所は八木家に払い下げられ、1902(明治35)年に合名会社としました。現在も昔ながらの製法による仙台みそ「五風十雨」を主力として醸造・販売を続けています。跡継ぎにも恵まれたので、これまで培ってきたものを活かしながら、敷地を活用した不動産経営ともども、奇をてらわない堅実な経営に努めていきます。

## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

取り壊された貯蔵庫跡を収入源に活かす



代表社員  
八木 忠一郎

戦時中に空襲の被害はなかったものの、軍によって仙台坂トンネルの予定地として敷地を貫く道路が計画され、昔からの貯蔵庫が取り壊されたところで終戦を迎えました。みそ醸造事業を縮小せざるを得ませんでしたが、更地のままだった土地を駐車場とし、現在も収入源として併営しています。

中小企業

製造業(畳製造)

# 有限会社加藤畳店

14代、250年以上続く  
北品川の老舗畳屋



創業  
256年

創業：1761(宝暦11)年  
資本金：300万円  
本社所在地：東京都品川区北品川2-9-27  
電話番号：03-3471-3968

代表者：加藤 丈幸  
従業員数：2人  
URL：<http://kato-shinagawa.com/>



品川宿の「湊屋」から「加藤畳店」に  
代々受け継がれる手縫いの技術

1761(宝暦11)年に「湊屋」という屋号で創業しました。それから250年以上、品川宿ゆかりの当地で畳屋を続けています。明治以降は加藤畳店と屋号を改め、一般家庭のほか、旧東海道沿いの寺社や品川浦の屋形船、料亭などを顧客にしています。もらい火事で何度も店舗が全焼しましたが、そのたびに店を立て直し、現在に至っています。今も畳はすべて手作業で制作。それを可能にするのが代々受け継がれている手縫いの技術で、うちの強みです。道具も先代の物を受け継いでいます。15代目になる息子はもともと内装工事を学び、手がけていました。4年前に畳屋を継ぐ決心をして職業訓練校に通い、今年から店に出ています。経験を積んで地道に腕を上げ、どんな仕事でも臨機応変に対応できる職人に育ててほしいです。

## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

畳の需要減を補うため、二本柱体制に



14代目  
加藤 丈幸

1960年代以降、洋室志向が強まる中で畳の需要が減り、仕事の先行きが怪しくなりました。そこで当時の事業主だった父(13代目)は、思い切って内装工事業に手を広げました。結果的にこれが当たって畳と内装の二本柱となり、売上を相互に補い合うという体制が出来上がりました。

製造業(量製造販売・修理)

# 有限会社豊松岡

仙台藩下屋敷の  
お抱え職人が原点



創業  
238年

創業：1779 (安永8)年  
資本金：350万円  
本社所在地：東京都品川区南品川2-8-25  
電話番号：03-3471-8060

代表者：取締役社長 松岡 清隆  
従業員数：2名



## 受け継いだ「丁寧な仕事」が顧客をつなぐ

初代・久米次郎は伊豆半島の下田出身ですが、江戸で仕事を見つけようと、船で品川までやってきました。そのとき弟子入りしたのが豊屋で、修行後、独立して「豊屋 久米次郎」を興しました。久米次郎は名人といわれるほど腕のよい職人で、品川にあった仙台藩下屋敷のお抱え職人だったと曾祖母から聞いています。現在の店名にしたのは5代目からですが、名字ではなく屋号として掲げたのが先なので、「松岡豊店」ではなく「豊松岡」としています。代々、職人として大切にしてきたのは、とにかく丁寧な仕事をする。これまで豊屋を続けてこられたのは、この辺りの地域が戦災や震災を免れ、昔からのお得意様が定着していることと、当店の仕事を評価してくださったお得意様が新しいお客様を紹介してくださったからです。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

#### 豊一筋に打ち込んだ職人魂

昭和の半ば以降から、床にじゅうたんを敷き詰めたマンションが流行しました。それが近年、最も豊の需要が減った時期ですね。しかし、それに流されて他の仕事に手を広げず、地道に昔からのお得意様に対して質の高い豊を提供し続けてきたことが、大きな打撃を回避できた理由だと思います。



7代目 取締役社長  
松岡 清隆

小売業(各種食料品小売)

# 株式会社平野屋堀江商店

商売だけでなく、  
まちづくりの視点も大切に



創業  
217年

創業：1800 (寛政12)年  
本社所在地：東京都品川区南品川2-7-12  
電話番号：03-3471-7495

代表者：代表取締役 堀江 新三  
従業員数：50人  
URL：<http://www.aoyoko.ch/hiranoya/>



## 酒屋からスーパーマーケットに競合店の進出に地域の方で対抗

200年以上前から、天妙国寺門前町の藤八商店として当地で商いを続けています。かつては酒屋で、戦前は卸もしていました。戦後、このあたりには海外向けの豆電球工場が建ち並び、各100人以上の従業員を抱えるほどの賑いでした。そのような工場相手に酒や乾物類などを小売していたのですが、工場が減り、業態を変える必要が出てきました。そこで、1960 (昭和35) 年に当時はまだ珍しかったスーパーマーケット形式にしました。私が継いだ昭和50年代には店舗を改築し、倉庫をなくして売り場を広げると業績が大きく伸びました。しかし開発が進むにつれて大手の競合店が進出し、赤字覚悟の安売りで対抗するなど厳しい競争が続いています。長年かけて築いてきた地域のつながりを味方にして、攻めの姿勢を忘れずに頑張っています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

#### 地域のつながりに何度も救われた

私は商店街振興組合の理事長のほか、町会の会長やまちづくり協議会会長などを務めてきましたが、そこで築いた地域のつながりによって救われたことが何度もあります。今後も生き残っていくためには、商店街と町会の両輪で、地域を元気にすることが大切だと考えています。



代表取締役  
堀江 新三

小売業(たばこ・その他の小売)

# 山崎商店

お客様第一を掲げる、天保年間創業のたばこ店



創業  
179年

創業：1838 (天保9)年  
資本金：300万円  
本社所在地：東京都品川区南品川1-7-23  
電話番号：03-3471-8059

代表者：山崎 政美  
従業員数：2名



## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

言われる前に「いつもの」を差し出す心遣い



4代目  
山崎 政美

近年は喫煙者が減り、売上も落ちました。その中でとにかくお客様第一の工夫を続けています。例えば顔と銘柄を覚えること。お客様が来たら何も言う前に「いつもの」を出し、お釣りも先に用意してお待たせしません。さらに明るく会話するといった昔ながらの接客を大切にしています。



明治時代の鑑札が残る老舗たばこ店  
お客様のため元日以外は店を開ける

明治時代にたばこの仕入れと販売を専売局から許可された証である、「煙草仕入鑑札」と「煙草出売鑑札」の木札が残っています。当社が創業したのは江戸時代の天保年間で、タバコの葉を仕入れて職人が刻みたばこを製造し、販売していました。戦時中、空襲による街の延焼が広がるのを防ぐという名目で建物の強制疎開が行われ、うちの店舗兼住宅も取り壊されました。しかし戦後すぐ先代である父が土地を買って店を再開。物が無い時代に急ごしらえした木造平屋で商売を続け、35年前に現店舗に建て直しました。たばこは吸いたい時にないと困る物ですから、お客様の声で閉店時間を伸ばし、今は1年で3日しか休まず、朝7時から夜9時まで営業しています。もう少し私の代を続けて、息子が定年になったら継いでもらおうと考えています。

中小企業

生活関連サービス業(遊漁船)

# 有限会社三河屋

「ここに任せれば安心」と  
いわれる信用を頂く



創業  
173年

創業：1844 (天保15)年  
本社所在地：東京都品川区東品川1-1-14  
電話番号：03-3471-3454

代表者：代表取締役社長 山田 廣吉  
従業員数：8名  
URL：<http://www.funayado-mikawaya.com/>



## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

漁場の減少に際して屋形船を始めた



5代目 代表取締役  
社長  
山田 廣吉

代々、漁や釣り船で生計を立てていましたが、昭和40年代までに品川沖の海が埋め立てられて漁場が減り、それだけでは成り立たなくなってきました。転機になったのはバブル期です。その頃に5代目を継いだ私が屋形船を始め、時代のニーズに合ったこともあり、大盛況でした。



江戸前の漁師として創業  
心からお客様に尽くす屋形船

創業は1844 (天保15) 年。屋号の由来は、初代が三河出身だからです。お台場に砲台を作る手伝いに駆り出された後、漁師としてこの地に居ついたそうです。それからは代々、漁や釣り船を家業にしてきました。バブル期に屋形船を始め、当時は広告宣伝なしでも次々とお客さんが来ました。料理の材料や酒はすべて商店街で仕入れていましたので、この地域一帯が潤いました。料理は活け物の魚介を中心にした素朴なものです。私たちは漁師ですので、魚のことはよくわかります。料理人を雇わない代わりに素材にお金をかけ、質にこだわっています。また、人材教育にも力を入れています。うわべだけでなく、心からお客様に尽くすサービスのできるスタッフを育てることが、この三河屋の「看板」を残していくことにつながると考えています。

小売業(和菓子製造小売)

# 栴翁軒 地道に歩んできたからこそ、今がある



創業  
168年

創業：1849 (嘉永2)年  
本社所在地：東京都品川区北品川1-2-8  
電話番号：03-3471-3385

代表者：岩瀬 吉二郎  
従業員数：2名



## 嘉永2年に東海道品川宿で創業 四季折々の菓子を毎日手作り

黒船来航以前の1849 (嘉永2) 年に初代・栄吉が創業しました。大いに賑わっていた東海道品川宿の中でも江戸側の端にあり、茶店として長らく花柳界をお得意様にしていたそうです。昭和に入り戦災で店が焼けてしまいましたが復興し、その後は地道に商売を続けてきました。私は子どもの頃から店の手伝いを続けていましたが、40年前に父がなくなり、店を継ぎました。バブルの頃にはビルへの建て替えなどの誘いがありましたが、全て断りました。店を大きくしようとは考えず、真っ当な菓子を作ってお客様に喜んでいただくことを良しとしています。82歳になった今でも、上質な上新粉を使った焼き団子をはじめ、四季折々の和菓子を毎日手作りしています。まちの風景が変わっても、変わらない家伝の味を今に伝えています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

#### 戦災から復興した5代目の心意気

一番の危機は戦争でした。5代目店主だった父の義治は出征し、材料になる物資もなく、空襲で店舗兼住宅が焼失しました。それでもみな生き残り、父も無事に戦地から引き揚げてきました。父は「代々続いた店を途絶えさせられない」と店を建て直し、商売を再開。見事にのれんを守りました。



6代目  
岩瀬 吉二郎

建設業(改修・改装工事)

# ヤマギシリフォーム工業株式会社

世界一の総合  
改修工事業者  
を目指して



創業  
164年

創業：1853 (嘉永6)年  
資本金：1億円  
本社所在地：東京都品川区東品川1-2-5  
リバーサイド品川港南ビル3F  
電話番号：03-3474-2900

代表者：代表取締役 山岸 大輔  
従業員数：124名  
売上高：60億円 \*2016年3月現在  
URL：http://www.ymgs.co.jp/



## ペンキ塗装から集合住宅改修工事へ 歴代経営者たちの先見の明が奏功

創業は嘉永年間です。山岸家初代の「塗安」は漆塗りの職人で、大名の調度品などを手がけていました。その長男の兼吉が当時は珍しかったペンキ塗装に注目。兼吉の長男である山岸喜太郎もペンキ塗装を学び、明治後期から大正始めにかけて、宮内庁や国鉄の諸工事に携わりました。喜太郎は1917 (大正6) 年、北品川に山岸塗工店を創立し、戦後の1947 (昭和22) 年には山岸塗装工業株式会社に改組しました。1960年代以降、集合住宅が数多く建てられる中、4代目の嘉一は集合住宅の改修という新たな分野に参入。塗装事業を柱にしながらか改修事業を増やし、業績を拡大しました。2001年には現社名に変更。現在の業務はほぼ集合住宅の改修工事で、6割ほどが元請けです。今後は、公共施設の改修なども視野に入れ、さらなる事業展開を考えています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

#### 業績悪化で体質改善の機運が生まれた

バブル崩壊によりゼネコンからの発注が減り、業績が悪化。その危機を救ったのが、戦後すぐからお付き合いのあった米軍の業務で、大切に取引を続けてきたことが実を結んだのです。この時の教訓もあり、ゼネコン頼りの体質を変えようという機運が生まれ、現在に活かされています。



6代目 代表取締役  
山岸 大輔

飲食サービス業(そば会席店)

# 有限会社吉田家

質に徹底的にこだわることで  
差別化を図る



創業  
161年

創業：1856(安政3)年  
資本金：300万円  
本社所在地：東京都品川区東大井2-15-13  
電話番号：03-3763-5903

代表者：代表取締役 池田 耕治  
従業員数：9人  
URL：http://www.soba-yoshidaya.com//



老舗こそ、時代のニーズに敏感になり変化を恐れぬ姿勢を

もともとこの店は、鮫洲にあった吉田家の支店でした。しかし跡取りがなく、私の祖父が4代目として大正元年に店を譲り受けました。5代目の父の代には近所に事業所が増え、そば屋よりも定食屋の趣が強いメニュー構成になりました。出前も多く手がけ、お客さんのニーズにあっていたので売上もありました。私の代になってそばの質を追求し、「わざわざ足を運んででも食べたい」というそばを目指しました。1983(昭和58)年には座敷や中庭を設け、和食の料理人を雇用して会席料理を楽しめるようにしました。大手ができないような細かな気遣いを欠かさず、職人として真つ当な仕事を続けたいと生き残れないと思いますが、老舗であるからこそ時代のニーズに敏感になり、変化を恐れぬ姿勢を持つべきだと私は考えています。

## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

味の価値を高めることを優先



6代目  
池田 耕治

1979(昭和54)年に私が継ぎ、そば屋らしい店構えに建て替えると、売上が落ち込みました。店構えとメニューがマッチしていなかったのです。そこで、そばを中心に据えて質にこだわり、価格を上げて最高級材料を使うことにしました。すると、1年ほどで盛り返し、軌道に乗りました。

中小企業

建設業(造園工事)

# 株式会社東海造園

地域に根ざし、  
造園文化を伝承する



創業  
161年

創業：1856年(安政3年)  
資本金：300万円  
本社所在地：東京都品川区南品川4-17-7  
電話番号：03-3474-5303

代表者：代表取締役 野村 脩  
従業員数：6名



時代の変化とともに  
磨き抜かれた造園技術

初代・野村仁左衛門が目黒で植木屋をしていたのが始まりです。明治時代に、品川の東海寺やゼームス坂の由来であるJ・M・ジェームス氏の屋敷の庭を管理するため現在の場所に店を移しました。3代目の祖父の時代には戦争による食料不足で庭を畑にする家が多く、大変な思いをしたと聞いています。戦後は復興の波に乗り多忙で、メキシコ大使館の庭造りを依頼された際には4代目とともに知恵を絞ったそうです。現在は、地域の寺や個人庭の造園・管理が主な仕事です。祭りの御神酒所前の飾り付けや地域の石碑造りのお手伝いもさせていただいています。技術の伝承と人材の育成を心がけ、日本に由来からある竹材などを使用し、心に潤いを与える庭造りを目指して日々精進しています。

## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

人とのつながりを大切に



5代目代表取締役  
野村 脩

終戦で仕事が途絶えた時期、祖父たち植木職人は造園組合をつくり、進駐軍家族住宅の庭の管理や、共同で材料を仕入れることで困難を乗り切ったそうです。これは、人とつながることで、個人ではできない仕事をやり遂げ、他国に日本の庭園文化を伝える結果につながっています。

小売業(履物小売)

# 丸屋履物店 見返りを求めないのが「粋」というもの



創業  
152年

創業：1865（慶応元）年  
本社所在地：東京都品川区北品川2-3-7  
電話番号：03-3471-3964

代表者：代表取締役 榎本 準一  
従業員数：2名  
URL：<https://www.getaya.org/>



## 慶応元年創業の和装履物店 江戸の粋を体現した履物を今に伝える

立会川で履物屋をしていた本家から分かれ、この地に店を構えたのが1865（慶応元）年です。榎本つるが創業者で、私で5代目になります。1958（昭和33）年に「赤線」が廃止になるまで、一般客はもとより、品川の遊郭が代々のお得意様でした。私が子どもの頃のこの界限は、店の前の通りを渡れないほどの人どおりで賑わっていて、履物屋も10軒ほどありました。今残っているのは当店だけで、息子の英臣が6代目となり、新しい試みも始めています。10年ほど前にホームページを開設し、当店の考え方や、さまざまな商品を紹介しています。ただ、実際に店に来ていただいて、お客様の足に合わせて花緒をすげるという基本は崩していません。江戸前のすげ方をした履物をとおして、江戸の粋を知っていただければと思います。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



5代目 代表取締役  
榎本 準一

#### 転換点の道標 技術喪失の危機に備える努力を続ける

近年、和装履物業界全体の高齢化が進んでいます。特に問題なのは、跡継ぎのいない職人が引退して技術が途絶え、花緒などの材料が手に入らなくなることです。そんな危機に備えるため、6代目の息子とともに職人の技術を受け継ぎ、自力でできることは自力でこなせるように努力しています。

卸売業・小売業(海藻その他の販売)

# 有限会社河邊商店 地域の皆様も卸先様も 同じ大切なお客様



創業  
152年

創業：1865（慶應元）年  
資本金：300万円  
本社所在地：東京都品川区小山3-7-17  
電話番号：03-3781-4924

代表者：代表取締役 河邊 克己  
従業員数：18名  
売上高：5億3,000万円  
URL：<http://kawabe-konbu.crayonsite.com/>



## 時代の変化に合わせた 営業スタイルで事業を継承

江戸時代、昆布は幕府に一時販売規制されていました。規制が解かれた後、創業者の山久保利兵衛は、家業だった昆布加工に精通していたことから、現在の三重県から江戸に招かれ、1865年、江東区で刻み昆布加工業を始めます。当時、中国に昆布を輸出していたことから、南京昆布屋と呼ばれていました。2代目の重次郎が河邊に改姓し、おぼろ昆布の加工販売を開始。関東大震災で被災し、品川区に移住してからも、おぼろ昆布で事業をつなぎ、戦後、3代目の利雄が有限会社河邊商店を設立し、卸販売に徹底。4代目が卸売市場や大手メーカー向けの営業部門株式会社カワシヨクを設立し、現在に至ります。一方で、地元向けの小売業も大切にしており、最近ではSNSで情報を発信するなど、若者の昆布ファン獲得にも力を入れています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



4代目 代表取締役  
河邊 克己

#### 転換点の道標 信用できる人、信用できる商品

当社の使命は、昆布をはじめとした海藻類を、安全かつ安心できる商品として納品することです。そのために必要なのは「信用」。関わるすべての人たちから信用していただける人であること、信用していただける商品を提供することが、当社の事業存続に不可欠なことだと考えています。

建設業(リフォーム・修理)

# 株式会社幸阪

畳製造から時代に合わせて内装業へ



創業  
140年

創業：1877(明治10)年  
資本金：1,000万円  
本社所在地：東京都品川区西品川2-24-10  
電話番号：03-3491-2032

代表者：代表取締役社長 小野 泰  
従業員数：3名



「街の何でも屋」の精神を引き継ぐ

当社は、三重県松阪市出身の初代・幸阪岩松が、東京で畳屋を興したのが始まりです。畳職人として、多くの仕事を手掛けていたと聞いています。しかし、時代とともに住宅は欧米の様式を取り入れるようになり、一般家庭は畳を変えず、その上から安いじゅうたんを敷くようになっていきました。そこで、事業内容を畳屋からリフォーム・修理などの内装業へと広げたのが4代目の保義です。現在の事業は、保義が築いた基盤の上に成り立っていると言っても過言ではありません。店を全面ガラス張りにし、通りかかった人が、外からでも店内に社員がいるか分かるように工夫したのも保義です。保義が大切にしたい、内装に関わるどんな困り事も気軽に相談できる「街の何でも屋」の精神を、これからも引き継いでいきたいと考えています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の道標



5代目 代表取締役社長  
小野 泰

## 4代目の功績で会社が成長

4代目の保義が、さまざまな挑戦をして当社を軌道に乗せました。法人化や社名の変更、自社ビルの建て替えや社員の増員、営業活動への注力など、時代に合わせた努力や工夫で年間売上高を増やしました。今の当社があるのは、変化を恐れずまい進した保義の功績によるところが大きいのです。

中小企業

小売業(文房具・事務用機器小売)

# 株式会社オカジマ

戦後復興を担った企業を小売店として下支え



創業  
135年

創業：1882(明治15)年  
資本金：2000万円  
本社所在地：東京都品川区大崎5-6-13  
電話番号：03-3492-5547

代表者：代表取締役 笹本 三樹雄  
従業員数：8名  
URL：<http://www.e-okajima.com/>



戦前、戦後、今なお変わらぬ顔の見える営業スタイル

初代の岡島幸次郎が、現在の品川区豊町で紙漉きを始めたのが、当社の創業になります。その後しばらくは、和紙製造業を営んでいましたが、戦後、大崎広小路に店を構え、文具類の卸、小売業を開始しました。その当時、店の周辺には、東京通信工業株式会社(現・ソニー株式会社)様をはじめとした複数の大企業が社屋を構えており、各社が業績を伸ばしていくなかで、社員の皆様がお使いになる文具や事務用品の需要も増えていったのです。そういう意味では、企業の皆様と共に、当社も成長させていただいたといえます。近年においては、事業規模を縮小していますが、これまで通り、顔の見える営業が大事であるとの考えに変わりはありません。関わる全ての皆様に喜んでいただけるよう、今後も尽力していく考えです。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の道標



4代目 代表取締役  
笹本三樹雄

## 万人を平等に大切にすること

戦後、当社を継いだ2代目の栄司は体が弱かったため、実務においては妻の愛子が采配を振っていたようです。愛子は、商店街の皆さん、組合の皆さん、問屋やメーカーの皆さんを、分け隔てなく大事にした人でした。私自身も「人を大事にすること」は営業の根幹だと思っています。

卸売・小売業(建築金物販売)

# 株式会社星野金物

商品を売るためには、  
まず商品知識を売りなさい



創業  
135年

創業：1882(明治15)年  
資本金：1,000万円  
本社所在地：東京都品川区北品川1-28-8  
電話番号：03-3471-4461(代表)

代表者：代表取締役 星野 俊司  
従業員数：6名



## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



4代目  
星野 俊司

### 良い商品を安く早く納めて信頼を得る

建築金物の需要は安定していますが、近年、価格競争が激しくなりました。当社は「良い商品を薄利で売る」「工事現場の要望に応じて早く商品を納める」ことを徹底した上で、お客様の要望にコツコツと応え続けています。そうして築いた信頼関係が、生き残るための支えになっています。



### 昭和初期築の店舗は今も現役 幾度の好不況の波を乗り越えた金物店

私の曾祖父にあたる星野巳之助が1882(明治15)年に創業しました。家庭用のほか、当時の品川らしく、遊郭や漁師たちが使う金物を手がけていたようです。なお現店舗は昭和初期に改築したもので、震災や戦災の被害を受けず、当時の姿をとどめています。戦後の物不足の時期は大変で、3代目で父の幸雄がリアカーを引き、商品になる物を毎日探し回ったそうです。そんな先代からは「商品売るためには、商品知識をまず売りなさい」と教えられました。お客様の相談に乗って、最適な商品を勧められることが小売店にとって大切だからです。以後、高度経済成長とオイルショック、バブル期の好況とその後の不況といった景気の波がありましたが、職人からゼネコンまでさまざまなお客様に支えられながら歴史を刻んでいます。

中小企業

小売業(呉服・和装小物小売)

# 株式会社尾張屋

伝統を守るだけでなく、  
時代に合わせることも必要



創業  
127年

創業：1890(明治23)年  
資本金：1000万円  
本社所在地：東京都品川区北品川2-4-21  
電話番号：03-3471-3748

代表者：代表取締役 大橋 登  
従業員数：3名  
URL：<http://www008.upp.so-net.ne.jp/kimono-owariya/>



## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



5代目  
大橋 登

### 代々、リスク管理を肝に銘じて

創業から昭和初期までに2回、火事に遭って店が全焼しました。しかし、2代目の登羅(とら)が当時はまだ珍しかった火災保険に入っていたため、多額の支給金がありました。皮肉なことに火事で店が大きくなったのです。以後、代々、リスク管理の大切さを肝に銘じて経営に当たっています。



### 恐慌・震災・戦災でも右肩上がり バブル後は特注品を中心にして 差別化

明治23年に呉服店を始めた大橋春三郎が30代で亡くなり、妻の登羅が2代目として事業を引き継ぎました。この登羅こそ、最も長く事業主を務め、かつ成功し、尾張屋の礎を築いた人物です。以来、恐慌や震災、戦災といった歴史の教科書に載るような事態に遭っても、我が社は右肩上がりの業績を残してきました。戦後は3代目になる私の祖父と祖母で事業を再開。続く4代目の父・誠も昭和後半から平成にかけて安定した経営を続けました。しかしバブル崩壊後、売上が大きく下がりました。そこで今は、日本製の素材にこだわったオーダーメイドの着物を仕立てて売ること、差別化を図っています。6代目になる予定の息子にも恵まれ、伝統をただ守るだけでなく、これからの時代を見据えた経営を目指しています。

卸売業(石鹼・洗剤・雑貨販売)

# 栗山商事株式会社

元卸問屋として  
トップメーカーとともに歩む



創業  
127年

創業：1890(明治23)年  
資本金：3250万円  
本社所在地：東京都品川区南品川1-9-12  
電話番号：03-3472-6161

代表者：代表取締役 栗山一彦  
従業員数：4名



創業者は元・海軍将校  
石鹼・洗剤類の元卸問屋として歴史を刻む

海軍の将校だった栗山善太郎が、退役後の1890(明治23)年に創業しました。当初は海軍への物資供給および雑貨の販売を事業としていました。初代は同じ頃に創業した長瀬商店(花王株式会社の前身)や、ライオン歯磨株式会社およびライオン油脂株式会社(ともにライオン株式会社の前身)などと取引を続け、石鹼・洗剤の元卸問屋として事業を成長させました。その後、2代目の栗山貞次、3代目の栗山誠一と代を重ねる中で、この業界の卸売の变革に対応してきました。やがてフマキラー株式会社、アース製薬株式会社といった企業とも取引するようになり、現在は4代目の私が代表取締役を務め、事業を続けています。

上丸写真 創業者 栗山善太郎

左写真 創業当時の社屋と3代目 栗山誠一(左)

中小企業

卸売・小売業(紙製品および文房具その他の販売)

# 株式会社フクイ

雑貨屋から始まった  
旧東海道沿いの文具店



創業  
127年

創業：1890(明治23)年  
資本金：1000万円  
本社所在地：東京都品川区北品川2-30-27  
電話番号：03-3471-5191

代表者：代表取締役 福井昌代  
従業員数：2名  
売上高：3,000万円  
URL：<http://www.bungu-shop.co.jp/>



寺の総代を務めることで  
地域との絆を築いた先代たち

初代幸三郎は、旧東海道沿いに雑貨屋を開き、商売を開始。2代目の柳己知が紙や文具を扱い始め、3代目治平が店の基盤を築き、4代目速雄が事業を軌道に乗せたといえます。なお、事業承継の背景には、2代目から4代目までが寺の総代を務め、地域の皆さんと密につながってきたことがあると思われます。2代目が紙を扱っていたのも、近辺に寺が多く、それに付随して花屋および和菓子屋の数も多く、いずれも商品の包装に紙を使っていたためではないかと推測されています。近年においては、物流そのものが大きく変化し、個人商店と顧客が密に関わる機会はいまや減ってしまいましたが、地域住民の利便性を高めるような存在として、商店街の皆さんと協力し合いながら生き残っていききたい考えです。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

## 土台にあるのは家族の団結力

戦争で満州に出兵していた3代目の治平に代わり、店を守ったのは、治平の親、兄弟、妻といった家族でした。家族の団結力が店を守ったといっても過言ではありません。戦後は店に戻り、「誠実な経営、質素な暮らし」を重んじていました。これは今なお、当社で大事にしていることです。

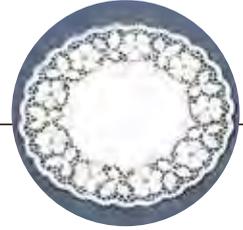


5代目社長代行  
福井 信

製造業(紙食器製造販売)

# 株式会社泰正

会社は公共のもの。  
地域社会とのつながりを大切に



**創業**  
**126年**  
創業：1891(明治24)年  
資本金：1000万円  
本社所在地：東京都品川区戸越1-25-20  
電話番号：03-3783-2111

代表者：代表取締役 石川 礼央  
従業員数：10人  
URL：http://www.e-taisei.co.jp/



## 日本の西洋料理の歴史とともに歩む 職人の手作りで質と安全を担保

当社は、明治初期に開店した日本初の西洋料理店「築地精養軒」の創業者・北村重威氏の指導により、1891(明治24)年に石川禮興が起こしました。西洋料理の付属紙器を製造する日本で初めての事業所として業績を重ね、1919(大正8)年には2代目・禮隆が合資会社石川商店を設立しました。1931(昭和6)年には現地に工場を移転。戦災で工場が全焼して一時解散したものの、3代目・禮信が事業を再開。高度経済成長期に洋菓子やレストランなどが一般庶民にも広がるにつれ、売上を伸ばしました。1952(昭和27)年には株式会社とし、1971(昭和46)年には社名を現在の「泰正」に。当社は品質と安全性にこだわる伝統を現在まで引き継いでおります。その品質を評価していただき、大手の格式あるホテルなどと取引を続けています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

#### 転換点の道標

#### 空襲による工場焼失からの再出発



5代目 代表取締役  
石川 礼央

昭和20年8月、当地は激しい空襲に遭い、焼け野原となりました。当社の工場も全焼し、一時事業解散に追い込まれました。2年後、3代目で私の父の石川禮信が事業の再開を決意。焼け跡から機械を掘り出して修理し、石川商店の名前を覚えてくださるお客様を頼りに仕事を始めました。

卸売業・建設業(木材・住宅資材販売および建設業)

# 株式会社池田元一商店

創業の地で今なお  
続く「木の商い」



**創業**  
**125年**  
創業：1892(明治25)年  
資本金：2000万円  
本社所在地：東京都品川区戸越1-25-3  
電話番号：03-3494-1171

代表者：代表取締役 池田 浩康  
従業員数：17名  
URL：http://www.ikedamotoichi.jp/



## 桶づくりから住まいづくりへ

初代の熊吉は桶づくりの職人で、桶以外にも、近くにあった製薬所に薬樽を納めたりしながら生計を立てていました。2代目の一は、桶の材料や建築用の木材を販売。戦後、3代目の元二になって、建築用資材が商いの中心になりました。現在では、3代目が築いた商いに加え、住宅リフォーム事業も手がけています。「木の商い」であることは一貫していますが、1世紀以上の時間をかけて、扱う品物は桶から住まいへと変化しました。この地でずっと事業を続けてこられたのは、先代達の努力もさることながら、やはり人とのつながりが大きいと思われます。今も当社では地域の活動やイベントに積極的に協力しながら、地域や社会に貢献できる事業を心がけています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

#### 転換点の道標

#### 誠実に、そして冷静に、前向きに



4代目 代表取締役  
池田 浩康

戦争で多くを失い、先が見えない中での苦労はたくさんあったようです。それでも、これまで事業を継続できたのは、誠実に本業を充実させたこと、そして冷静に物事を見て、前に向かった決断をしてきたことにあると思います。

小売業(和菓子製造小売)

# 有限会社御菓子司木村家

老舗和菓子屋として、  
材料は最高級のもの



創業  
125年

創業：1892(明治25)年  
資本金：300万円  
本社所在地：東京都品川区北品川2-9-23  
電話番号：03-3471-3762

代表者：代表取締役 木村 眞基  
従業員数：4名  
売上高：2,000万円



人の縁で軌道に乗せた2代目、  
看板商品を生み出した3代目

初代の木村誠夫がこの地で創業し、腕の良い職人として盛業していました。1度目の転機は2代目の鶴松の時です。15歳の頃に父・誠夫を亡くし、折からの不況などもあって大変苦労しました。時がたって和菓子組合の長になり、関係者の仲人を務める機会が増え、冠婚葬祭の菓子などの注文が安定して入るようになりました。2度目の転機は1963(昭和38)年頃。3代目の桂一が、現在も看板商品になっている「大福」を誕生させました。修業先の名店2軒で学んだ知識を掛け合わせたその商品は、大納言小豆のつぶあんにもっちりとした皮、そこに「青えんどう」を散りばめた豆大福。しかし3代目は体調を崩し、私が22歳の時に4代目として店を継ぎました。以来、材料は手に入りうる最高の物にこだわりながら、弟と店を守っています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

店主不在の危機を母と職人の力で乗り切った  
3代目である父が考案した「大福」のヒットで順調に商売を続けていました。しかし、大変忙しくなったことで、体が弱かった父が体調を崩して入院。しかし、父の指示の伝達役をこなした母と、その指示を忠実に実践した菓子職人の技量で危機を乗り切ることができました。



4代目 代表取締役  
木村 眞基

中小企業

建設業(水回り工事・修理)

# 有限会社富田屋工業所

日本橋の大店から  
のれん分けした井戸屋



創業  
123年

創業：1894(明治27)年  
資本金：300万円  
本社所在地：東京都品川区南品川2-10-5  
電話番号：03-3471-7994

代表者：代表取締役 梶ヶ谷 治代  
従業員数：3名



今でも続く、  
昔ながらの井戸のメンテナンス

2代目の祖父からは、日本橋の井戸屋から3軒のうち1軒のれん分けをしてもらったのが当店の始まりだと聞いています。昔はどの家も井戸を使っていたから、くみ上げに使うポンプの修理や点検が専門でした。水道管が整備された現在では、蛇口や排水溝の修理、配管などが中心ですが、この辺りはお寺が多く、ほとんどが昔ながらの井戸を残しています。お盆やお彼岸には、お墓参りに来た方々にたくさん利用されているので、シーズンに入る前は、メンテナンスや修理の依頼が多いですね。また、最近では災害の備えとして改めて井戸が注目されており、設置の相談を受けることも少なくありません。今後も、当店が代々引き継いできた歴史を汚さぬよう、心を込めた丁寧な仕事を心掛けます。それがきっと、よい形で返ってくると信じています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

同業者とお客様の支えあってこそ  
マンションが急増し、施工時間や騒音など難しい面が増えました。限られた時間で多くの技術を要する現場も、先代から変わらず支えてくださる同業者や、作業を信頼して任せてくださるお客様のおかげで乗り越えられました。今後は支えられるだけでなく、支えることもできるよう精進します。



4代目 代表取締役  
梶ヶ谷 治代

小売業(せんべい製造小売)

# せんべい処あきおか

素朴な味だからこそ  
良い原材料にこだわる



創業  
122年

創業：1895(明治28)年  
本社所在地：東京都品川区北品川2-2-8  
電話番号：03-3471-4325

代表者：代表取締役 秋岡 信男  
従業員数：2名



## かつての海苔の名産地・品川で 初代考案の品川巻を受け継ぐ

1895(明治28)年に初代・秋岡松蔵がこの地で創業しました。当時の品川一帯は海苔の名産地で、初代は海苔漁師から仕入れた海苔を棒状のあられに巻いた「品川巻」を売り出しました。これは今でも当店の看板商品です。戦中から戦後は2代目の信蔵が継いでいましたが、原料の米が手に入らず、店を続けられない状況でした。生活のために別の仕事でのぎ、米が出回るようになると店を再開しました。昭和30年代に信蔵が若くして亡くなるという危機を迎えましたが、妻・志づゑと家族の奮闘で乗り越え、3代目の信男が10代で店を継ぎました。昭和40年代に私が嫁いできてからは二人で力を合わせて商売を続けています。当店は一貫して国内産米にこだわり、信男が体調を崩してしまった今も、代々受け継いできた味を私が守っています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

#### 2代目急逝の危機を家族の力で乗り越えた



3代目代理  
秋岡 久良子

昭和30年代、2代目の秋岡信蔵が若くして亡くなりました。その危機を救ったのが妻・志づゑと家族でした。志づゑが中心になり、まだ健在だった初代・松蔵の尽力のもと、子どもたちを含めた家族総出で店を守ったのです。数年後、10代ながら店を手伝っていた信男が店を承継。現在に至ります。

運輸業(一般貨物自動車運送)

# 株式会社小野運送店

お客様の気持ちを運ぶ



創業  
121年

創業：1896(明治29)年  
資本金：4992万円  
本社所在地：東京都品川区南品川4-2-33  
電話番号：03-3474-8778

代表者：代表取締役社長 小野 正彦  
従業員数：270名  
売上高：35億円 \*2017年3月末現在  
URL：<http://www.ono-unso.co.jp/>



## 馬力運送からトラック運送へ 現在は産廃収集運搬事業も手がける

明治初めに愛知県から上京した創業者・小野為吉は、土木建築業の会社で馬方として重宝され、1896(明治29)年に独立して馬力運送業を起業しました。順調に業績を上げ、品川界隈で有数の馬力屋となりました。1919(大正8)年には甥の貞義が2代目社長に。貞義は、戦中の激動の時代を乗り切り、仕事量が減った戦後の混乱期をしのぎ、馬力運送からトラック運送へという大きな構造転換にも乗り遅れることなく、今日の安定経営の基礎を築いた功労者です。その後も当社は、隣接する日本ペイント様関連の運送を専門的に手がけ、発展してきました。80年代半ばからは産業廃棄物収集運搬事業も手がけるようになり、今日では運輸事業と並ぶ柱に育てました。同事業は社会的貢献度が高く、当社の新たな道を拓いたと高く評価しています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

#### 価格競争を闘い抜く、会社の体力



7代目 代表取締役  
社長  
小野 正彦

「物流2法」が制定された90年代初めが最大の危機でした。規制緩和で急増した新規参入業者のダンピングによって運賃価格が崩れ、売上減を余儀なくされました。それでも価格競争を辛抱強く闘い、仕事を失わずに乗り越えられたのは、先代たちが会社を鍛え、体力を蓄えてきたおかげだと思います。

卸売業(陶磁器・ガラス器販売)

# 株式会社岩元屋商店

一器一会(いっきいちえ)の  
出会いを



創業  
121年

創業：1896(明治29)年  
本社所在地：東京都品川区南品川2-12-5  
電話番号：03-3471-7822

代表者：代表取締役 赤沼 祐一  
従業員数：2名  
URL：<http://www2.odn.ne.jp/~hak99670/index.htm>



瀬戸物の小売から卸へと転向  
現在は業務用食器を幅広く扱う

1896(明治29)年に初代の赤沼定一が現・山口県岩国市から上京し、この南品川で瀬戸物の小売店を開業したのが始まりです。屋号の由来は岩国の「岩」と、同地などを治めた戦国大名・毛利元就の「元」だと伝え聞いています。小売をしている頃は店先にたくさんの食器や土瓶、火鉢などを並べて販売していましたが、徐々に卸売に転向し、そば屋や中華料理屋に食器類を卸すようになりました。かつては大晦日ともなると、一晩中、年越しそばの丼を配達して回っていたそうです。平成3年に私が店を継いで4代目となり、現在は和食器全般、漆器、ガラスの器など業務用食器を専門に取り扱っています。そのほか、東京都庁、都内特別区の関連施設に各種食器、厨房用品、荒物雑貨等を納品するなど、公的機関も顧客にしています。



中小企業

製造業(ステンレスバルブ製造)

# 平和バルブ工業株式会社

時代とニーズに  
合ったタンクバルブ



創業  
118年

創業：1899(明治32)年  
資本金：1000万円  
本社所在地：東京都品川区西五反田5-2-11  
電話番号：03-3493-5855(代表)

代表者：代表取締役 平林 健一  
従業員数：11名  
URL：<http://www.heiwa-valve.co.jp/>



いつの時代も新しい発想で  
バルブづくりに向き合う

当社は、初代の平林秀斉が十代で工場に弟子入りし、技術を習得して創業した事業所です。旋盤(旋削加工を行う工作機械)が手動だった時代に、ガスエンジンを動力にした旋盤でバルブをつくり注目を集めました。2代目和雄の時代には、第二次世界大戦が勃発し、海軍監督工場として、駆逐艦などに使われるバルブを製造。企業合同で栃木県佐野市に工場を設立しましたが、終戦を迎え、戦争で焼け野原化した現在の場所に工場を構えたのです。鉄製のバルブしかなかった当時、ある顧客からの依頼でつくようになったのがステンレス製のバルブでした。これが戦後の当社を支えたことは言うまでもありません。3代目英一の時代には、ステンレスのタンクバルブをつくるようになり、これが現在の主力製品となっています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

かなめ  
要は先代の教えと迅速な対応力

現在、当社は4代目の健一に代替わりしていますが、2代目の「人に後ろ指を指されるようなことはしてはいけない」との教えは、変わることなく受け継がれています。また、お客様の多様なご要望に対しては、少人数だからこそ可能な軽いフットワークで対応させていただきます。



3代目 前代表取締役  
平林 英一

卸売・小売業(食肉卸売・小売)

# 有限会社櫻井精肉店

後継者に恵まれ、三代そろって店に立つ



創業  
117年

創業：1900(明治33)年  
本社所在地：東京都品川区南品川4-18-14  
電話番号：03-3471-9067

代表者：代表取締役社長 染谷 恵太  
従業員数：3名  
URL：<http://sakuraiseinikuten.minami-shinagawa.com/>



ゼームス坂通りで117年  
ITを活用して新規顧客を獲得

創業は1900(明治33)年ですが、当初は大崎にあったと場から少量の肉を仕入れ、たらいに入れて軒先で売っていた程度と聞いています。明治30年代ですから、肉食がちょうど庶民に受け入れられ始めた頃で、そこまでの需要がなかったのでしょう。店舗を構えて本格的に始めたのは、2代目の櫻井勝次郎、3代目の櫻井文子の頃。往時のゼームス坂通りは賑わいのある商店街で、私がここで働きはじめた40年ほど前でも、坂上まで商店が軒を連ね、魚屋だけで4軒あるほどでした。後継不足で店を閉めるところも多いですが、うちは跡継ぎに恵まれ、6代目の息子に加えて孫も店を手伝ってくれています。ホームページやフェイスブック、ツイッターも開設し、おすすめ情報などを配信することで、新しいお客さんが増えたように思います。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

原発事故の風評被害が一番の危機



5代目 代表取締役  
社長  
染谷 恵太

2011年の福島原発事故後の2年間ほど、福島県産に限らず、牛肉が全然売れない時期が続きました。風評被害によるものですが、私が見る中で一番の危機といえます。それでも、3代続けてひいきにしてくださいのような常連客に支えられ、なんとか乗り切ることができました。

小売業(印章小売製造)

# 有限会社青波堂木庭印房

海が間近だった品川宿の名残が店名に



創業  
110年

開校：1907(明治40)年  
資本金：300万円  
本社所在地：東京都品川区南品川2-11-5  
電話番号：03-3471-8585

代表者：代表取締役 木庭 圭一郎  
従業員数：1名  
URL：<http://tokyohanko.jp/kbi.html>



時代の変化に負けず  
新たな商材で新規顧客開拓を目指す

当店は旧東海道沿いの商店街(品川宿場通り南会)にあります。青波堂(せいほどう)という名前は、かつては街道目前まで海だったことに由来します。創業は1907(明治40)年で、当店の初代は木庭家ではなかったようですが、2代目として私の祖父の木庭繁太郎が店を継ぎ、以降は木庭家が世襲しています。3代目には祖父の長男の鍵一郎、続いて私の父の等が4代目になりました。父は町会の役員として、荏原神社のお祭りなどの地域行事を取り仕切っていましたので、地元の人と深いつながりがありました。結果としてそれが仕事にもつながっていたと思います。近年は、OA機器の急速な発展と普及により、ゴム印類全般の受注が減少するなど厳しい状況にあります。それでも、私の代になってからは印章の他に、書道などで使う落款印や蔵書印などの篆刻を手がけ始め、新たな顧客の開拓に励んでいます。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

信頼と地域のつながりという先代の遺産



5代目 代表取締役  
木庭 圭一郎

私がこの仕事に就いて6年目に、先代である父が体調を崩し、急遽継ぐことになりました。まだ独り立ちできていない時分、昔からのお得意様に助けられながら、目の前の仕事をこなしていきました。父が築いた職人としての信頼や地域のつながりのおかげで、なんとかスタートを切れました。

小売業(メガネ・時計・ジュエリー製品小売)

# 株式会社東京堂

武蔵小山商店街の黎明期を知る  
老舗の眼鏡・宝石・時計店



創業  
110年

創業：1907（明治40）年  
本社所在地：東京都品川区小山3-24-2  
電話番号：03-3781-7312

代表者：代表取締役 島村 篤子  
従業員数：6名



初代は伊藤博文お抱えの時計職人  
現在は高齢化社会に合った品揃えに

私の祖父である創業者・細谷省三は、伊藤博文お抱えの時計職人でした。品川区西大井（旧・大井伊藤町）にあった伊藤博文邸宅のホールクロック（大型置時計）の修理を任せられ、やがては大井三ツ又に自分の店を構えました。しかし、道路拡張により退去を余儀なくされ、黎明期にあったこの武蔵小山商店街に移転しました。時計が最も売れたのは昭和30年代で、売れすぎて在庫がなくなることもありました。最盛期は時計修理職人を3人雇い、住み込みの従業員も男女合わせて20人以上いました。1995年の火事をきっかけに親から事業承継し、私が社長になりました。高齢化社会になった現在、眼鏡や補聴器などが主力になりました。これは自然なことだと思います。時計も数字が大きくて盤面が見やすいものを中心に置き、高齢者の好みに合わせています。

## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

### 隣人たちの協力で火災被害を乗り越えた



3代目 代表取締役  
島村 篤子

1995（平成7）年3月に起きた武蔵小山商店街の火災に巻き込まれ、店舗部分の延焼は免れたものの、消防の放水で水浸しになりました。それでも、多くの部会の皆さまの協力で商品を運び出し、損害を抑えることができました。同年中に店を再開できたのも、商店街のつながりのおかげです。

中小企業

小売業(米穀類・酒小売)

# 清水米穀株式会社

店を継いだ者は、  
自分が創業者だと思って励め



創業  
110年

創業：1907（明治40）年  
資本金：1000万円  
本社所在地：東京都品川区小山3-8-1  
電話番号：03-3781-8836

代表者：代表取締役社長 清水 保之  
従業員数：4名



先代をただ踏襲するのではなく  
時代に合った方針を自身で考える

私の曾祖父である清水新蔵が、1907（明治40）年に当時の荏原郡上目黒で創業しました。新蔵は若かったものの商才に長け、米の仲卸と小売を兼ねていました。しかし関東大震災で被災し、この地に移転。その後、商売はうまくいきましたが、戦争で2代目の保一と店舗を失いました。新蔵は不幸に屈せず再興し、私の父で3代目の功雄に事業を託しました。功雄は、当時はこの辺りにスーパーがなかったので、販売する商品の幅を広げました。私が継いだ平成6年にはスーパーもコンビニもありましたので、あえて米中心に集約しました。しかも、良質な米を生産農家から直接買い付け、販売しています。このように、店を継いだ者自身が時代や社会のニーズに合った経営方針を考え出すうちのやり方は、合理的だと自負しています。

## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

### 戦争の不幸を乗り越えた、不屈の初代



4代目 代表取締役  
社長  
清水 保之

終戦間際に当時34、5歳だった2代目の清水保一が召集されました。保一は復員することなくシベリアに抑留され、亡くなりました。空襲で蔵以外を焼失したばかりか、跡継ぎをも失った初代・清水新蔵でしたが、不屈の精神で店を立て直し、保一の長男・功雄を3代目に育てあげました。

# 株式会社KANO 代々続く「のれん」の誇りを守る



創業  
107年

創業：1910(明治43)年  
本社所在地：東京都品川区西五反田1-25-1 KANOビル  
電話番号：03-3491-4847

代表者：代表取締役 狩野 武司



建築金物屋として地元に着  
現在は不動産管理業でのれんを守る

創業は1910(明治43)年で、くぎなどの建築金物を中心に取り扱ってきました。この地域には大工が多かったこともあり、大正・昭和期には順調に事業を展開できました。平成に入るとビルを建築し、不動産管理業も営むようになりました。私が5代目として継ぐころになると、インターネット通販が登場したため、個人向けの商品は売れなくなると予測し、飲食店や建築関係が多い五反田の街に合わせた、業務用の商品中心にしました。その上で、売上を伸ばすために店舗を改装したり、品ぞろえを広げたりして試行錯誤し、さらに専門的でニッチな市場をねらいました。それが功を奏し、ドアクローザーや防犯鍵などで成果を出すことができました。その後は不動産管理業の業績が上がったため、同業に専念し、当社ののれんを守っています。

## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



5代目 代表取締役  
狩野 武司

**転換点の道標** 先代たちが築き上げた人脈やご縁に助けられた  
1989(平成元)年にKANOビルを竣工し、金物卸売・小売業から不動産管理業にシフトしていきました。しかし、一時的に収益が落ち込み、危機に直面。それでも、代々築き上げてきた人脈やご縁に助けられ、「のれんを失いたくない」という強い思いが結実して何とか乗り越えることができました。

小売業(海苔小売)

# 品川屋海苔店 江戸前の海苔の味と香りを伝え続ける



創業  
105年

創業：1912(大正元)年  
所在地：東京都品川区北品川2-26-19  
電話番号：03-3471-4649

代表者：保川 泉  
従業員数：2名



良質な海苔の魅力と  
品川宿の歴史を守り続ける

江戸時代、遠浅な品川浦では魚介類が豊富にとれ、「江戸前」の語源にもなりました。海苔の名産地として名を馳せ、「品川海苔」は浮世絵でも名物として紹介されています。当店の創業は1912(大正元)年で、良質な品川海苔を製造し、料亭や寿司屋に納めていました。昭和30年代に品川海苔が壊滅した後も東京湾産の海苔にこだわり、千葉県の高津産などの良質な海苔を仕入れ、取引を続けています。私は3代目の婿養子に入り、4代目としてこの店を継ぎました。北品川商店街協同組合の理事長を務め、地域経済の振興にも取り組んでいます。区随一のイベントである「しながわ宿場まつり」も今年で27回目となり、年々参加者が増えています。このような品川らしい祭りに大勢の観光客が来てもらい、品川宿を知ってもらえたらと思います。

## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



4代目  
保川 泉

**転換点の道標** 品川海苔壊滅後も、東京湾産の海苔にこだわった  
昭和30年代、品川浦は工業の発展とともに埋め立てられ、品川海苔は過去の物となりました。それでも当店は東京湾産にこだわり続け、先代までが積み重ねてきた歴史と信用のおかげで、千葉県の高津産などの良質な海苔の仕入れに成功。料亭や寿司屋との取引も継続。贈答や家庭用の推奨店になりました。

小売業(海苔小売)

# 株式会社みの屋海苔店

時代を越えて愛される  
海苔をお客様に届ける



創業  
105年

創業：1912年(大正元年)  
資本金：3,800万円  
本社所在地：東京都品川区南品川6-7-7  
電話番号：03-3474-5522

代表者：代表取締役 寺平 喜昭  
従業員数：14名



信頼を裏切らない、  
丁寧な海苔づくり

「みの屋」という屋号は、初代・米吉の修業先からもらいました。当店のルーツは長野の上諏訪。雪深い冬に上京し海苔の収穫を手伝ったことから、東京の海苔業者には長野出身者が多いといわれています。2代目の清は高校を出てすぐ跡を継いだようです。1950(昭和25)年から築地で店舗を構え、業者および一般向けに海苔の販売を開始しました。1962(昭和37)年からは「明治屋」との取引が始まり、3代目である現在も、名古屋にある自社工場で製造した品質の高い商品を全国のお客様に提供しています。数年前からは添加物を使用しない味付海苔の製造を始めました。仕事をする上で一番大切にしていることは「信頼関係」。得意先や仕入先の方たちはもちろんのこと、従業員との関わりにおいても同じ心構えです。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

## 長年勤務する従業員とともに

パン食の定着や贈答品の多様化など、時代の流れで海苔業界全体が厳しい時期もありました。その都度「責任を持って仕事をする」との覚悟で経営判断をし、大きな打撃を避けてきました。しかし何よりも、長年勤めている社員の皆さんのおかげでここまで事業を継続できたと感じています。



中小企業

小売業(酒小売)

# 株式会社ワインショップ西川

仕入値と品質の  
バランスを見極める



創業  
105年

創業：1912(大正元年)  
本社所在地：東京都品川区上大崎2-15-16西川ビル  
電話番号：03-3441-3624

代表者：代表取締役 西川 紘  
従業員数：3名



昔ながらの酒屋からワイン中心に  
吟味した直輸入物で量販店と差別化

私の祖父が1912(大正元)年に創業しました。当初は瀬戸物屋で奉公していましたが、日露戦争の頃に軍隊で知り合った人に影響され、酒屋に転向。修業先から独立して今の所在地に店を構えました。商売は軌道に乗り、5人ほどの従業員を雇うまでになりました。その後、戦時中の危機を乗り越え、祖父と父で再出発。3代目の私は昭和40年頃に店に入りました。ワインを始めたのは昭和50年代。当初は細々としたものでしたが、ボージョレーヌーヴォーのブームの頃からワインの取扱いを強化し、酒類輸入卸免許を取得。その後、ボルドーワイン振興に貢献した人々に贈られる「ボンタン騎士団」の称号を頂きました。現在は同じくボンタン騎士団の称号を持つ四代目の息子が選んだ品揃えで、量販店との差別化を図っています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

## 母の奮闘で戦争を乗り切った

戦時中には従業員のみならず二代目の父も出征しました。そんな人手不足の中、店を守ったのが母でした。弊社が今日あるのは、母と残った従業員の方々が一生懸命働いてくれたおかげだと思っています。



3代目 代表取締役  
西川 紘

建設業(とび土木工事・廃棄物収集運搬)

# 有限会社新井商店

「仕事は真面目に丁寧に」が  
モットー



創業  
103年

創業：1914(大正3)年  
本社所在地：東京都品川区大崎1-18-2  
電話番号：03-3491-9987

代表者：代表取締役 新井 敬二



## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



4代目 代表取締役  
新井 敬二

**街が変わっても、地域と歩む姿勢は変わらず**  
工場地だった大崎地区は、再開発で高層ビルが建ち並ぶ街へと変貌しました。それでも、当社3代目の新井敬章が地元・居木橋町会の会長を長らく務め、熱心に活動したように、当地区には事業所が地域とともに歩む風土があります。当地で長年続く事業所として、今後も地元を大切にしていきます。



経験豊かな職人が力を発揮  
専門的かつ多様な業務に対応

1914(大正3)年に新井勇次郎が創業し、ある地元企業の工場の専属出入業者として、構内の宮繕作業や不要廃品類の処理などを引き受けていました。自動車の普及前でしたので、馬車で構内の廃棄物を集め、船で品川埠頭まで運んでいたそうです。1937(昭和12)年にはその工場内に営業所を開設しましたが、戦災で工場もろとも焼け野原に。当社は後片付けなどの業務を請け負い、工場の復興に尽力しました。やがて私の父で3代目の新井敬章が20代で事業を引き継ぎ、1961(昭和36)年には有限会社新井商店を設立。工事部門も設置し、廃棄物収集運搬、清掃作業、重量物の運搬据え付け、とび・土木工事と、専門的かつ多様な業務に従事してきました。私は2011(平成23)年に跡を継ぎ、経験豊かな職人とともに、近隣の事業所を中心に事業を展開しています。

中小企業

製造業(中華麺類製造・卸)

# 株式会社南京軒食品

お客様の要望に合わせた麺を  
自社で開発、製造、配送



創業  
103年

創業：1914年(大正3年)  
資本金：9,400万円  
本社所在地：東京都品川区小山4-15-3  
電話番号：03-3781-5958

代表者：代表取締役 三浦 健太郎  
従業員数：51名  
売上高：8億2,940万円  
URL：http://nankinken.jp



## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



4代目 代表取締役  
三浦 健太郎

**誠実な仕事で新しいチャンスをつかむ**  
バブル崩壊やリーマンショックなど、時代のおおりの受け、しんどい時期もありましたが、その度に普段からの人付き合いに救われました。廃業される同業他社の仕事を引き継いだこともあります。誠実な仕事がかつときのチャンスにつながり、困難を乗り越えてきたと感じています。



外食産業の発展に寄り添って

初代・平岡儀作は熊本で和菓子職人をしていましたが、白金で食堂を営んでいた姉夫婦に中華麺製造を商売にしてみないかと声をかけられて上京。その後現地に移り、最初は屋台の個人事業者に向けて中華麺の製造・小売をしていました。戦後、中華料理店が増えたころから少しずつ商売が軌道に乗り、1966(昭和41)年にラーメン食堂「元祖札幌や」との取引を始めました。当時100店舗以上に展開した同店とともに事業を拡大。その後もお客様の増加などに伴って中華麺だけでなくさまざまな食材や業務用食材消耗品などを卸し、会社を成長させました。これからも、100年以上続けてきた製麺技術にプライドを持って日本の食文化に寄り添い、発信する役割を担っていきたいと思っています。

製造業(電気絶縁材料の製造・販売)

# 株式会社日本理化工業所

「絶縁テクノロジー」で  
新たな価値の  
創造に取り組む



創業  
103年

創業：1914 (大正3)年  
資本金：9500万円  
本社所在地：東京都品川区大井1-20-6  
電話番号：03-3771-0174

代表者：代表取締役 大栗 崇司  
従業員数：470名  
URL：http://www.nipponrika.jp/



顧客の高い要求にこたえ  
常に挑戦し続ける

初代の大栗虎三は銀座で運送業を営んでいました。ある日、得意先に言われた「これからは電気の時代だよ」との言葉が虎三の人生を変えました。虎三は独学で研究を進め、電気を制御する絶縁システムに着目。鉱物「マイカ（雲母）」の可能性を信じ、製品化したのが当社の始まりです。その後、電気絶縁メーカーとして、日本を代表する大手電機メーカーとともに国内外の電機産業の発展に貢献してきました。現在は顧客のニーズの変化に応じ、基板事業やコイル事業にも注力、着実に海外拠点を増やし、商社事業などグローバルに展開しています。100年にわたり成長を続けているパワーの源は、マイカの草分け的存在という立場に甘んじることなく、常に新たなジャンルに挑戦し、今までにない価値の創造を目指す社風に他なりません。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



6代目 代表取締役  
社長  
大栗 崇司

評価された品質の高さ

創業時は、なかなか大手企業に採用してもらえず、経営が行き詰まっていた。しかし、関東大震災の混乱で海外製品の輸入が止まり、当社の商品に白羽の矢が立ったのです。そこで品質の高さが評価され、国内一流電機メーカーから次々と受注し、会社は急成長を遂げました。

中小企業

運輸業(貨物自動車運送)

# 小林運送株式会社

それぞれの時代に必要な  
物流を見極める



創業  
101年

創業：1916年 (大正5)年  
資本金：4,000万円  
本社所在地：東京都品川区大崎1-6-1 TOC大崎ビルディング1F  
電話番号：03-5496-1201

代表者：代表取締役 小林 裕  
従業員数：89名



トラック1台から  
人や地域と深く関わって

創業者・義孝は長野から上京し、大崎駅前の馬車屋で馬方をしながら米などを運んでいました。1916 (大正5)年にトラック1台から当社を創業。事業は徐々に軌道に乗りました。戦時中は浮き沈みもあったようですが、戦後復興の時代は木材を、東京オリンピック以降は鉄筋や銅板などその時代に必要とされる物流を展開。現在は精密機器、家電、文具、印刷紙やアミューズメント機器など幅広い商品を運んでいます。仕事に対しては先代から「車や倉庫は買えるけど人は買えない」という思いを受け継ぎ、従業員を大切にすることを常に心がけています。3代目の榮子は警察署の協議委員長などを務め、現在は街頭で子どもたちの登校見守りへの参加など、地域活動にも深く携わっています。

▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



4代目 取締役代表  
小林 裕

焼け跡から立ち上がる

東京大空襲ですべてが焼き尽くされた中、焼け跡から集めた車のエンジンを修理し、薪で動かす代燃車を組み立ててトラックを動かしたと聞いています。そうして1台ずつトラックを増やして仕事を続けた創業者の不屈の精神が、現在までの事業継続の根幹になっていると感じています。

小売業(茶小売)

# 株式会社若素園

顔の見える商いで  
信頼関係をていねいに重ねる



創業  
101年

創業：1916年(大正5年)  
資本金：1000万円  
本社所在地：東京都品川区北品川2-6-13  
電話番号：03-3471-3582

代表者：代表取締役 堀口 尚利  
従業員数：4名  
URL：http://www.wakamotoen.com



## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

### 在庫に対する意識改革



3代目 代表取締役  
堀口 尚利

主力事業の葬儀の返礼品の売上げが減少し、これまで日本茶だけだった品揃えを転換して飛び込み営業で仕入先を開拓しました。また未使用分は返品を取ってもらうことにし、「いつか売れるから」と過度な仕入れを自重。会社の体質改善を図ることで、大きな打撃を回避できたと考えます。



我が社の  
百年譚

### 地域の皆さまの「頼られる存在」に

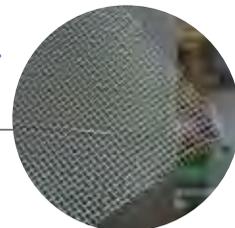
「若素園」は祖父・茂の奉公先でした。両親が亡くなって後継ぎとなり、当時は五反田に店を構えていましたが、戦後に現在地へ移ってきました。2代目の眞男が葬儀の返礼品としてのお茶の販売を始め、事業は徐々に成長。それ以来コツコツとお茶の小売業を続けています。3代目になった現在も「お客様に頼られる存在に」をモットーに、お茶だけではなくお菓子などさまざまな商品を取り扱うようになりました。商店街の理事も務めており、地域の方たちと深く関わっています。長く通ってくださるお客様も多いのですが、最近は小さなお子様連れのお母さんや、お昼休みのサラリーマンなど、新しい世代のお客様も増えてきました。今後も地域の皆さまに頼りにしていただけるよう、精進していきます。

中小企業

製造業(金網製造)

# 曽根金網工業株式会社

「少量多品種」と高い専門性で  
時代の変化にも適応



創業  
101年

創業：1916年(大正5年)  
資本金：1000万円  
本社所在地：東京都品川区南品川1-3-7  
電話番号：03-3471-5731

代表者：代表取締役 曽根 成浩  
従業員数：4名  
売上高：1億円  
URL：http://www.sonewn.com/



## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標

### 培ったネットワークを活用して



3代目 取締役代表  
曽根 成浩

金網加工は、機械化が進んでも手作業が必要な工程が多く、職人の勤が求められる場面も少なくありません。製造業の空洞化が加速する中、これまで培ってきたネットワークを駆使し、それぞれの店や職人の得意分野を生かした金網を取り引きすることで、事業を継続できたのだと思います。



我が社の  
百年譚

### 金網業界全体の発展に貢献

初代の甚蔵が手織り金網の見習いを経て、文京区大塚辻町に金網店を開店したのが創業です。1932年(昭和7年)に南品川に移転し、戦後すぐ、現在地で「曽根金網工業株式会社」を設立。東京オリンピックを挟んで事業は急成長し、2代目・伸郎はとにかく忙しかったようです。金網の種類は多様で、当社は金網や樹脂網を使った加工品を製造販売しています。昔は職人の技術や育成も大事な仕事でしたが、業界全体が縮小しつつある今は、横のつながりや助け合いを大事にするようになりました。現在は、東京金網商工組合の会長を務め同業者から相談を受けることもあります。また組合や金網文化の歴史をまとめた冊子の編さんにも関わっていて、金網業界全体に貢献できるような事業を日々心がけています。

卸売・小売業(専門輸入商社)

# 株式会社ジャパンコマース

「誠実に、元気に  
明るく」がモットー



創業  
101年

創業：1916(大正5)年  
資本金：1000万円  
本社所在地：東京都品川区北品川1-12-10 ジャコムビル6F  
電話番号：03-3471-8361

代表者：取締役会長 堀口 嘉代子  
代表取締役社長 堀口 和代  
従業員数：7名  
URL：http://www.jacom-hawaii.com/



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



取締役会長(3代目  
代表取締役社長)  
堀口嘉代子

## バブルに踊らず、自社のキャパシティを守った

バブル期には、事業の急拡大を促すような誘いが多々ありましたが、先代の堀口壬也はすべてお断りしました。時代の波に惑わされることなく自分たちのキャパシティを守り、堅実に目の前の仕事をこなしていくことを選んだおかげで、現在があると思います。今後先達の方針を大切にしていきたいと思います。



日本の近代化を担った酸素溶接工場から  
ハワイ州政府からも信頼される商社に

1916(大正5)年に初代・堀口貫らが創業した安部酸素工業所がルーツです。自動車部品再生修理工場として酸素溶接修理業を営み、日本の近代化に貢献してきました。戦後、1951(昭和26)年には株式会社に組織変更。2代目社長の壬也が事業を拡大し、1988(昭和63)年には社名を株式会社ジャコムに改称して工場を羽田に移し、跡地に現在の本社ビルを建築しました。さらに商事部を設け、ハワイ商品の輸入販売を開始。その後、工場部門に続いて1996(平成8)年に商事部門を独立させて株式会社ジャコム商事を設立し、2015年には現社名に改めました。現在、長女で4代目社長を継いだ和代とともに、「ハワイ州政府との信頼関係」「直輸入による本物志向」を大事にしながら、専門輸入商社として事業拡大を目指しています。

中小企業

不動産業(不動産賃貸・管理)

# 株式会社塚本恒産

「恒産なくして恒心なし」を  
モットーに



創業  
101年

創業：1916(大正5)年  
資本金：1000万円  
本社所在地：東京都品川区西大井2-23-3  
電話番号：03-3771-0794

代表者：代表取締役 塚本 信江  
従業員数：2名



▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



4代目 代表取締役  
塚本 信江

## 時代の流れを受け入れて業態転換

大正年間から公衆浴場業を営んできました。昭和40年代になると風呂付きの家が一般的になり、お客様が1/5以下に。西大井以外にも2軒あった銭湯を1989(平成元)年から閉めていき、跡地を駐車場やマンションとして活用していきました。平成6年には不動産業に完全移行し、現在に至っています。



代々続けた公衆浴場業から  
土地資産を活かした不動産業に

富山県出身の祖父・塚本作蔵は1892(明治25)年に単身上京し、銭湯に奉公しました。真面目で我慢強い気質もあって、1916(大正5)年には独立して現・千代田区紀尾井町に自分の店を出しました。しかし1932(昭和7)年に他界。2代目となる父・政吉が19歳で継ぎました。その後、目黒で店を構えますが、戦時中の空襲で全焼したため、出征先から戻った父は西大井の当地に空いていた浴場を購入。当時、地方からの上京者で人口が急増していて、朝から深夜まで営業しても、毎日お客様が溢れんばかりの盛況ぶりでした。その後1983(昭和58)年に3代目で夫の利光が継ぎ、平成以降は所有する土地を活用し、不動産業に業態転換。しかし、品川区議会議員の公務が多忙を極めたため、私が事業を引き継ぎました。地域に根ざした堅実な経営で、次世代に承継できればと思います。

製造業(工業用ブラシ設計・製造・販売)

# 仲屋ブラシ工業株式会社

日本における工業用  
ブラシ生産のパイオニア



創業  
100年

創業：1917(大正6)年  
資本金：3000万円  
本社所在地：東京都品川区南品川6-15-22  
電話番号：03-3474-3765

代表者：代表取締役 丹野 雄介  
URL：<http://www.nakaya-brush.co.jp/>



## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



4代目 代表取締役  
丹野 雄介

**どんなに苦しいときでもリストラはしない**  
地味に堅実に、当たり前のことを当たり前にする経営を心がけています。初代から代々、「苦しいときでも人に手を付けない(リストラをしない)」ことを心がけ、社の人間力をいかに蓄えられるかを重要視しています。それが専門知識やノウハウの蓄積につながり、業務に活かしています。



## 60年以上代表を務めた創業者 多業界に顧客を持つ安定経営

1917(大正6)年に丹野仲治が当時の荏原郡品川村で創業した個人商店、仲屋刷子(ブラシ)店がルーツです。創業者は11歳の時に上京して刷毛店に入り、24歳で独立しました。4代目である私の曾祖父にあたり、1981(昭和56)年まで代表を務めました。戦前は家庭用のハケやブラシを製造して個人客に販売していましたが、戦中から戦後には、工業用のブラシも扱うようになりました。高度成長期にはそちらがメインとなり、国鉄(現JR)や防衛庁などを顧客にしなが、業務を拡大しました。取引先が多業界に広がったことで景気の波の影響を受けにくくなり、現在まで安定した経営が続けられています。今後も蓄積したノウハウを活かした技術営業を柱にし、お客様のニーズを見極めた当社ならではの提案を続けていきます。

中小企業

製造業(パルプ・紙・加工品製造)

# 株式会社山田紙器

輝100年、そして煌100年。



創業  
100年

創業：1917(大正6)年  
資本金：3004万円  
本社所在地：東京都品川区荏原3-5-6  
電話番号：03-6429-1185

代表者：代表取締役 山田 晴久  
従業員数：67名  
売上高：11億5000万円  
URL：<http://www.liberalpack.co.jp/>



## 和装貼箱の家内工業が始まり 業務改革を重ねて新たな挑戦を続ける

初代・山田太助が1917(大正6)年に和装小物の貼箱を家内工業で製作する「誠進堂」を創業。1929(昭和4)年に婿養子の庄吉が2代目を継ぎ、屋号を山田紙器製作所に。戦時中は包装資材の特需がありましたが、空襲で工場が焼失し、終戦後、品川区荏原に移転しました。3代目の龍造は紙管容器に注目して生産体制を整え、チョコレートの筒状容器などの大ヒットを生みました。東京五輪後の不景気による事業整理をへて、龍造夫婦は有限会社山田紙器を新たに起こし、懸命に働いて再興させました。1996年に4代目を継いだ私は、製造と販売の一体強化のため工場を東扇島に移転させた後、大井町に東京本部を新設し、営業と企画の強化を進めました。また、100周年を機に、新たに(一社)ギフト研究所を設立し、業界全体の発展に寄与していきます。

## ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



4代目 代表取締役  
山田 晴久

## 事業整理を乗り越え再興を果たした

昭和30年代半ば、美粧紙管容器の大ヒットや五輪景気のもとで、大規模な設備投資を続けました。しかし、五輪後の景気後退の影響により、1967(昭和42)年には事業整理を余儀なくされました。それでも当時の社長・山田龍造は多くの支援を受けて再起。10年足らずで株式会社化しました。

# 「しながわ 百年力」

## 事業所 MAP

平成 27 ~ 29 年度に品川区永年継続事業所表彰を受けた 59 事業所の所在地マップです。  
 区内を品川地区、大崎地区、大井地区、荏原地区の4地区に分け、それぞれ創業年の古い順に並べています。

### 大崎地区

- 1 学校法人攻玉社学園 P18
- 2 学校法人立正大学学園 P19
- 3 株式会社幸阪 P28
- 4 株式会社オカジマ P28
- 5 株式会社池田元一商店 P31
- 6 株式会社明電舎 P9
- 7 平和バルブ工業株式会社 P34
- 8 光村印刷株式会社 P10
- 9 株式会社KANO P37
- 10 タキゲン製造株式会社 P12
- 11 株式会社ワインショップ西川 P38
- 12 有限会社新井商店 P39
- 13 大崎電気工業株式会社 P13
- 14 小林運送株式会社 P40
- 15 日本精工株式会社 P14

### 荏原地区

- 1 有限会社河邊商店 P27
- 2 株式会社泰正 P31
- 3 学校法人三浦学園 P20
- 4 株式会社東京堂 P36
- 5 清水米穀株式会社 P36
- 6 学校法人星薬科大学 P21
- 7 株式会社南京軒食品 P39
- 8 株式会社山田紙器 P43

### 大井地区

- 1 八木合名会社仙台味噌醸造所 P22
- 2 有限会社吉田家 P26
- 3 三菱鉛筆株式会社 P7 \*1
- 4 株式会社加藤製作所 P8
- 5 株式会社日本理化学工業所 P40
- 6 株式会社塚本恒産 P42
- 7 株式会社ニコン大井製作所 P15

### 品川地区

- 1 有限会社加藤豊店 P22
- 2 有限会社豊松岡 P23
- 3 株式会社平野屋堀江商店 P23
- 4 山崎商店 P24
- 5 有限会社三河屋 P24
- 6 樹翁軒 P25
- 7 ヤマギシリフォーム工業株式会社 P25
- 8 株式会社東海造園 P26
- 9 丸屋履物店 P27
- 10 日本ペイントホールディングス株式会社 P6
- 11 株式会社星野金物 P29
- 12 株式会社尾張屋 P29
- 13 栗山商事株式会社 P30
- 14 株式会社フクイ P30
- 15 有限会社御菓子司木村家 P32
- 16 有限会社富田屋工業所 P32
- 17 せんべい処あきおか P33
- 18 株式会社小野運送店 P33
- 19 株式会社岩元屋商店 P34
- 20 有限会社櫻井精肉店 P35
- 21 有限会社青波堂木庭印房 P35
- 22 三和テキキ株式会社 P11
- 23 品川屋海苔店 P37
- 24 株式会社みの屋海苔店 P38
- 25 株式会社若素園 P41
- 26 曾根金網工業株式会社 P41
- 27 株式会社ジャパンコマース P42
- 28 仲屋ブラシ工業株式会社 P43
- 29 東洋製罐グループホールディングス株式会社 P16



\*1 2017年12月現在、本社所在地に新社屋を建設するため、大井1丁目28番1号住友不動産大井駅前ビル6階/14階に本社を仮移転中です。

※2017年12月現在の所在地を示しています。  
 ※MAP内の番号はおおよその位置を示したものであり、必ずしも正確な位置を示したものではありません。

## 顕彰事業所と商店街 —受け継がれる「商店街の顔」—

2017年12月現在、区内には104の商店街があります。中でも都内最長のアーケード商店街「武蔵小山商店街」、関東有数の規模を誇る「戸越銀座商店街連合会」などは各種メディアで取り上げられる機会も多く、全国的な知名度があります。一方で、商店街総数は減少傾向で、空き店舗が目立つところもあるなど、区内商店街の二極化が進んでします。

平成27～29年度に当事業で表彰された59カ所の顕彰事業所のうち、半数近くが商店街に位置しています。その7割以上が品川地区の事業所で、江戸時代から続くところも9カ所あります。中には加藤豊店（宝暦11年創業）と豊松岡（安永8年創業）のように創業200年をゆうに超える事業所も軒を連ねています。



戸越銀座商店街のにぎわい  
(出典：しながわ百景 荏原地区79)

区が2017年に発行した『品川区産業支援施策調査

分析 最終報告書【商業編】』において、「商店街活性化に向けての最も重要な課題は、いかに人づくりを行うかということである。個店店主の高齢化が進む一方、後継者の確保が難しく、廃業する店も少なくない。キーパーソンの引退や加盟店数の減少は商店街組織に人材不足をもたらしている」とあります。

そのような状況の中で、顕彰事業所は大きな役割を果たしています。商店街の役員を務める顕彰事業所事業主は少なくなく、しかも、二代続けてというケースがほとんどです。さらに次代に目を向けても、後継者の多くは現在30～40歳代で、事業を承継することに並々なら



武蔵小山商店街のにぎわい (出典：しながわ百景 荏原地区74)

ぬ決意があり、老舗を預かる責任を自負している方ばかりです。商店街の牽引役というバトンは、彼らに受け継がれる可能性が高く、顕彰事業所事業主は代々「商店街の顔」（＝キーパーソン）という役割を果たしていくこととなります。このように、商店街活性化の課題とされる「人づくり」を顕彰事業所が担うことで、商店街全体の振興に代えがたい役割を果たしています。

また、商店街に属する顕彰事業所の多くは職住一体ないし職住近接ですから、商店街という組織が商業振興のためであると同時に、地縁組織としても機能しています。代々その地で暮らし、地域の祭りの運営などに携わることで、世代が変わっても地域の結びつきが保たれます。常連客や仕入先との関係も、世代を超えて続いていることが多く、代替わりで途切れることなく引き続き良い関係性を保っています。

老舗の強さの秘訣は、このような「世代を超えた人のつながり」にあるといえます。顕彰事業所は商店街の顔として、つながりの核として、区の商店街振興施策を考える上で、不可欠な存在となっています。



品川神社の例大祭 (出典：しながわ百景 品川地区10)

# しながわ百年力

品川区永年継続事業所顕彰事業

---

発行日 2018年1月17日 第1刷

発行 品川区地域振興部商業・ものづくり課

〒141-0033 品川区西品川 1-28-3

TEL:03-5498-6335 FAX:03-3787-7961

製作・印刷 株式会社トライ

※本書の無断複製、二次使用を禁じます。



品川区

〒140-8715 広町 2-1-36 **TEL:03-3777-1111**(代表)

<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>